

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン トウキョウコクサイダイガク 学校法人 東京国際大学									
フリガナ大学の名称	トウキョウコクサイダイガク 東京国際大学 (Tokyo International University)									
大学本部の位置	埼玉県川越市の場北1丁目13番地1									
大学の目的	東京国際大学は、教育基本法及び学校教育法に則り、建学の精神「公德心を体した真の国際人の養成」を基調として、広い教養及び社会に密接な専門学術を教授・研究し、人類の福祉と文化の発展に貢献し得る知性と勇気と先見性豊かな人材を育成することを目的及び使命としている。									
新設学部等の目的	<p>本学医療健康学部は、本学の建学の精神および教育理念の下に、少子高齢化の進展に伴う医療・介護需要増大とそれによる健康増進・介護予防分野の重要性増大とといった日本社会の変化に対応すべく、医療・健康科学における専門的知識・技術をもって心身の健康を支援することで社会に貢献できる人材を養成することを教育目的とし、当該学部を設置する理学療法学科は、現代社会の問題を理学療法の視点から捉え、医療・福祉分野のみならず、健康増進・介護予防分野においても活躍できる人材を養成することを教育目的とする。人口減少・高齢化により、医療福祉の需要増加や健康維持・増進の重要性が増す中、ひとの心身の健康と自立した生活を支援する高度医療福祉専門職「理学療法士」を養成し、地域社会に対して貢献することを本学理学療法学科の使命とする。</p>									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	医療健康学部 (School of Health Sciences) 理学療法学科 (Department of Physical Therapy)	年	人	年次人	人	学士 (理学療法学) (Bachelor of Physical Therapy)	令和3年4月 第1年次	埼玉県川越市の場北1-13-1		
	計	4	80	—	320					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	経済学部 経済学科 (定員増) (40) (令和3年4月) 言語コミュニケーション学部 (定員増) (20) (令和3年4月) 英語コミュニケーション学部 (定員増) (65) (令和3年4月) 国際関係学部 国際関係学科 (定員増) (65) (令和3年4月)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	医療健康学部 理学療法学科	講義	演習	実験・実習	計	130				
教員の組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設分	医療健康学部 理学療法学科	7人 (7)	7人 (7)	6人 (6)	0人 (0)	20人 (20)	0人 (0)	6人 (6)	
		計	7 (7)	7 (7)	6 (6)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	— (—)	
	既設分	商学部 商学科	10 (10)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	19 (19)	
		商学部 経営学科	13 (13)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	19 (19)	
		経済学部 経済学科	21 (20)	15 (12)	5 (4)	0 (0)	41 (36)	0 (0)	7 (7)	
		言語コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学部	9 (11)	5 (3)	7 (7)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	6 (6)	
		国際関係学部 国際関係学科	9 (9)	9 (7)	7 (6)	0 (0)	25 (22)	0 (0)	17 (17)	
		国際関係学部 国際メディア学科	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	17 (17)	
人間社会学部 福祉心理学科	5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	24 (24)			

教 員 組 織 の 概 要	既	人間社会学部 人間スポーツ学科	7 (7)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	24 (24)	
		人間社会学部 スポーツ科学科	7 (7)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	24 (24)	
	設	GTI(Global Teaching Institute)	0 (0)	0 (0)	42 (42)	0 (0)	42 (42)	0 (0)	0 (0)	
		JLI (Japanese Language Institute)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	6 (6)	
		言語教育機構	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	
		教育研究推進機構	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	
	分	計	90 (91)	42 (35)	90 (88)	1 (1)	223 (215)	0 (0)	— (—)	
		合計	97 (98)	49 (42)	96 (94)	1 (1)	243 (235)	0 (0)	— (—)	
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員		142 (142) 人		69 (69)		211 (211)			
	技 術 職 員		— (—)		— (—)		— (—)			
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)		— (—)		1 (1)			
	そ の 他 の 職 員		8 (8)		— (—)		8 (8)			
計		151 (151)		69 (69)		220 (220)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		・校舎敷地は下段が 現有面積、上段が池 袋国際キャンパス (令和5年9月完成予 定)を含む。 ・運動場用地は坂戸 キャンパス、河川敷 校地を含む。	
	校 舎 敷 地	87,288㎡ (77,288㎡)	0㎡		0㎡		87,288㎡ (77,288㎡)			
	運 動 場 用 地	201,978㎡	0㎡		0㎡		201,978㎡			
	小 計	289,266㎡ (279,266㎡)	0㎡		0㎡		289,266㎡ (279,266㎡)			
	そ の 他	2,675㎡	0㎡		0㎡		2,675㎡			
	合 計	291,941㎡ (281,941㎡)	0㎡		0㎡		291,941㎡ (281,941㎡)			
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		下段が現有面積、上 段が池袋国際キャン パス (令和5年9月完 成予定)を含む。	
		87,966㎡ (61,195㎡)	㎡		㎡		87,966㎡ (61,195㎡)			
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	・大学全体 ・下段が現有数、上 段が池袋国際キャン パス (令和5年9月完 成予定)を含む。				
	192室 (124室)	14室 (14室)	7室 (7室)	24室 (21室) (補助職員0人)	12室 (12室) (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数					
		医療健康学部 理学療法学科			18 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定 不能なため、大学 全体の数		
	医療健康学部 理学療法学科	693,218 [115,698] (681,218 [113,898])	15,657 [14,089] (15,634 [14,076])	12,111 [12,111] (12,111 [12,111])	15,762 (15,722)	355 (355)	— (—)			
	計	693,218 [115,698] (681,218 [113,898])	15,657 [14,089] (15,634 [14,076])	12,111 [12,111] (12,111 [12,111])	15,762 (15,722)	355 (355)	— (—)			
図 書 館		面積		閲覧座席数		取 納 可 能 冊 数			大学全体	
		10,274㎡		648		699,000				
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		4,473㎡		野球場2面		テニスコート8面				
				サッカー場3面		ゴルフ練習場2面				
				フットサル場3面		アーチェリー場1面				
				陸上競技場400トラック1面		ソフトボール場2面				

経費の見積り 方法及び 維持の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子 ジャーナル・データ ベースの整備費(運 用コストを含む)を 含む。	
		教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	—		—
		共同研究費等		3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	—		—
		図書購入費	0千円	19,278千円	3,716千円	3,716千円	3,716千円	—		—
	設備購入費	221,441千円	0千円	0千円	0千円	0千円	—	—		
学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	1,800千円	1,550千円	1,550千円	1,550千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、雑収入							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	東京国際大学 (Tokyo International University)								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	商学部	年	人	年次	人		倍			
	商学科	4	100	—	440	学士(商学)	0.93	昭和40年度	埼玉県川越市の場北 1丁目13番地1	
	経営学科	4	80	—	360	学士(経営学)	1.13	平成25年度		
	経済学部						0.99			
	経済学科	4	435	—	1,580	学士(経済学)	0.99	平成元年	埼玉県川越市の場北 1丁目13番地1	
	言語コミュニケーション学部						1.02			
	英語コミュニケーション学科	4	230	—	960	学士(言語コミュニ ケーション学)	1.02	平成16年度	埼玉県川越市の場北 1丁目13番地1	
	中国言語文化学科	4	—	—	—	学士(言語コミュニ ケーション学)	—	平成25年度		平成29年度より 学生募集停止
	国際関係学部						0.98			
	国際関係学科	4	245	—	910	学士(国際関係学)	0.97	平成7年度	埼玉県川越市の場北 1丁目13番地1	
	国際メディア学科	4	60	—	600	学士(国際メディア 学)	1.02	平成19年度		
	人間社会学部						1.01			
	福祉心理学科	4	25	—	150	学士(福祉心理学)	0.89	平成7年度	埼玉県川越市の場2509	
	人間スポーツ学科	4	230	—	920	学士(人間スポーツ 学)	1.03	平成23年度	埼玉県川越市の場2509	
	スポーツ科学科	4	200	—	800	学士(スポーツ科 学)	1.03	平成24年度	埼玉県川越市の場2509	
	大学院商学研究科									
	商学専攻(博士前期課程)	2	30	—	60	修士(商学)	0.50	昭和61年度	埼玉県川越市の場北 1丁目13番地1	
	商学専攻(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(商学)	0.16	昭和63年度		
	大学院経済学研究科									
	経済学専攻(博士前期課程)	2	20	—	40	修士(経済学)	0.23	平成6年度	埼玉県川越市の場北 1丁目13番地1	
	経済学専攻(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(経済学)	0.33	平成14年度		
	大学院国際関係学研究科									
	国際関係学研究専攻修士課程	2	20	—	40	修士(国際関係学)	0.63	昭和59年度	埼玉県川越市の場北 1丁目13番地1	
	大学院臨床心理学研究科									
	臨床心理学専攻(博士前期課程)	2	25	—	50	修士(心理学)	0.27	平成13年度	埼玉県川越市の場2509	
臨床心理学専攻(博士後期課程)	3	2	—	6	博士(心理学)	0	平成13年度	埼玉県川越市の場2509		
附属施設の概要	該当なし									

教 育 課 程 等 の 概 要																
(医療健康学部理学療法学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
TUコア 科目	ICT基礎	1前	2			○								兼1		
	大学生活デザイン演習	1前	2				○							兼1		
	小計 (2科目)	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1	—	
基礎 教育分野	人間と 文化	生命倫理学	1後	2			○								兼1	
		人間関係論	1前	2			○								兼1	
		哲学	1前・後		4		○								兼1	
		倫理学	1前・後		4		○								兼1	
		芸術論	1前・後		4		○								兼2	
		文化人類学	1前・後		4		○								兼1	
		Introduction to American Society	1後	4			○								兼1	
		小計 (7科目)	—	4	20	0	—			0	0	0	0	0	兼7	—
教養 コア科目	現代 社会	法学	1前・後		4		○								兼1	
		憲法	1前・後		4		○								兼1	
		社会学	1前・後		4		○								兼2	
		現代の社会	1前・後		4		○								兼1	
		心理学概論	1前・後		4		○								兼1	
		小計 (5科目)	—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	兼5	—
自然 環境 科学 と	基礎統計学	基礎統計学	1後	2			○			1		1			兼1	オムニバス・ 共同(一部)
		環境と自然	1前・後		4		○								兼1	
		情報処理の基礎	1前・後		4		○								兼1	
		小計 (3科目)	—	2	8	0	—			1	0	1	0	0	兼3	—
健康と スポ ーツ	健康・スポーツ科学	健康・スポーツ科学	1前・後		4		○			1					兼1	
		健康・スポーツ実技	1前・後		1				○	1					兼2	
小計 (2科目)	—	0	5	0	—			1	0	0	0	0	兼2	—		
ス キ ル 言 語 科 目	英 語	Oral Communication	1前	2			○								兼3	
		Reading & Writing	1後	2			○								兼3	
		小計 (2科目)	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼3	—
自 由 選 択 科 目	キャ リ ア 形 成 支 援 科 目	インターンシップ(体験型)	1後		1										兼1	
		インターンシップ(実践学修型)	1後		3										兼1	
		ボランティア活動	1前		1										兼1	
		キャリア・Re-スタート	1後		2		○								兼1	
		地域の安全と警察	1後		2		○								兼1	
		小計 (5科目)	—	0	9	0	—			0	0	0	0	0	兼2	—
	プ ロ ジ エ ク ト 科 目	観光まちおこしワークショップ入門	1前・後		2											兼3
		観光まちおこしワークショップ実践A	1前・後		2											兼1
		観光まちおこしワークショップ実践B	1前・後		2											兼1
		観光まちおこしワークショップ実践C	1前・後		2											兼1
観光まちおこしプロジェクトA		2前・後		1											兼1	
観光まちおこしプロジェクトB		2前・後		1											兼1	
観光まちおこしプロジェクトC		2前・後		1											兼1	
小計 (7科目)	—	0	11	0	—			0	0	0	0	0	兼4	—		

教 育 課 程 等 の 概 要

(医療健康学部理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	運動解剖学	2前	1			○					1				共同 オムニバス
		運動学	1後	1			○					1				
		運動学実習	2前	1					○		2	2				
		運動生理学	2前	1			○				1	1				
		解剖学Ⅰ	1前	1			○			1						
		解剖学Ⅱ	1後	1			○			1						
		解剖学Ⅲ	1後	1			○			1						
		解剖学実習Ⅰ	1前	1					○	1	1					
		解剖学実習Ⅱ	1後	1					○	1	1					
		心身機能発達学	1後	1			○					2				
		生理学Ⅰ	1前	1			○			1						
		生理学Ⅱ	1後	1			○			1						
		生理学実習	1後	1					○	1		1				
	小計(13科目)	—	13	0	0			—	1	3	5	0	0	0	—	
専門基礎科目	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	医学一般Ⅰ	2前	1			○			1	1					兼1 オムニバス
		医学一般Ⅱ	2後	1			○			1	1					
		栄養学	2前	1			○				1					
		画像診断学	2前	1			○				1					
		救急救命医学	3前	1			○			1	1					
		公衆衛生学	2前	1			○									
		疾病予防と健康増進	3前	1	2		○			1						
		神経内科学Ⅰ	2前	1			○				1					
		神経内科学Ⅱ	2後	1			○				1					
		整形外科Ⅰ	2前	1			○			1						
		整形外科Ⅱ	2後	1			○			1						
		精神医学	2前	1			○				1					
		病理学	2前	1			○				1					
薬理学	3前	1			○											
臨床心理学	2後	1			○				1							
	小計(15科目)	—	14	2	0			—	2	1	0	0	0	0	兼3 —	
専門基礎科目	リハビリテーション の理念	健康ビジネス論	4後		2		○									兼1 兼1 兼1
		社会福祉概論	2前	1			○									
		地域包括ケアシステム論	3後	1			○									
		チーム医療論	3後	1			○					1				
		リハビリテーション概論	1前	1			○			1						
		小計(5科目)	—	4	2	0			—	1	0	1	0	0	0	
専門科目	基礎理学療法学	基礎理学療法学	1後	1			○					1				※実習 共同 オムニバス オムニバス 集中
		基礎理学療法学演習Ⅰ	1前	1				○		4	6	6				
		基礎理学療法学演習Ⅱ	1後	1				○		4	6	6				
		生体観察と触診法	1後	1					○	1		2				
		理学療法学概論	1前	1			○			2	5	3				
		理学療法学特論	2後		1		○			1	2	5				
		理学療法学文献講読	3前		2			○			1					
		理学療法臨床英語	3後	1				○				1				
		小計(8科目)	—	6	3	0			—	4	6	6	0	0	0	
理学療法管理	理学療法管理学	4後	2			○										
	小計(1科目)	—	2	0	0			—	0	0	0	0	0	0	—	

教 育 課 程 等 の 概 要

(医療健康学部理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手						
専 門 教 育 分 野	理学療法評価学	機能・能力評価学Ⅰ	1後	2			○			1									
		機能・能力評価学実習Ⅰ	1後	1					○	1		1						共同	
		機能・能力評価学Ⅱ	2前	2			○			1								共同	
		機能・能力評価学実習Ⅱ	2前	1					○	2								共同	
		臨床運動分析学演習	2後	2					○	1									
		小計(5科目)	—	8	0	0			—	3	0	1	0	0	0	0		—	
		理学療法治療学	ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法	4後	1			○			1								
	運動器理学療法学Ⅰ		2後	1			○					1							
	運動器理学療法学実習Ⅰ		2後	1					○	1		2						共同	
	運動器理学療法学Ⅱ		3前	1			○					1							共同
	運動器理学療法学実習Ⅱ		3前	1					○	1		2							共同
	運動療法学		1後	1			○					1							共同
	運動療法学実習		2前	1					○		2								共同
	義肢装具学		2後	1			○						1						共同
	義肢装具学演習		2後	1					○			1	1						共同
	クリニカル・リーディング総論		3後		2			○			1								
	クリニカル・リーディング各論		4後		2				○		1								
	障がい者スポーツ支援論		4後		2				○					1					
	小児理学療法学		3前	1				○						1					
	神経・筋疾患理学療法学		3前	1				○											
	スポーツトレーニング特論		4後		2				○			1							
	スポーツ理学療法学		3前		2			○				1							
	スポーツ理学療法学演習		3後		2				○					1					
	神経理学療法学Ⅰ		2後	1				○			1								
	神経理学療法学実習Ⅰ		2後	1						○	1	1							共同
	神経理学療法学Ⅱ		3前	1				○				1							共同
	神経理学療法学実習Ⅱ		3前	1						○		2							共同
	疼痛理学療法学		3後	1				○				1							集中
	内部機能理学療法学Ⅰ		3前	1				○				1							兼1
	内部機能理学療法学Ⅱ		3前	1				○											兼1
	内部機能理学療法学実習		3前	1						○		1							
	日常生活活動理学療法学		2後	1				○				1							
	日常生活活動理学療法学実習		2後	1						○		1	1						共同
	物理療法学		2後	1				○				1							
	物理療法学実習		2後	1						○		1	1						共同
	理学療法リスクマネジメント演習		2後	1						○		1							
	理学療法学演習Ⅰ		2前	1						○	4	5	6						
	理学療法学演習Ⅱ		2後	1						○	3	3	6						
	理学療法学演習Ⅲ		3前	1						○	3	6	6						
	臨床理学療法論	4後		2			○			1									
		小計(34科目)	—	27	14	0			—	5	6	6	0	0	0	0		—	
		地域理学療法学	介護予防評価演習	3後		2			○										オムニバス・ 共同(一部)
生活環境支援理学療法学	3後		1				○			1									
地域理学療法学	3前		1				○					1							
予防理学療法学総論	3前		1				○				1								
予防理学療法学各論	4後			2			○			1									
	小計(5科目)	—	3	4	0			—	1	2	1	0	0	0	0		—		

教 育 課 程 等 の 概 要

(医療健康学部理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育分野	臨床実習	機能・能力評価学臨床実習	2後	5					○	4	5	6				
		総合臨床実習Ⅰ	3後	7					○	4	5	6				
		総合臨床実習Ⅱ	4前	9					○	4	5	6				
		小計(3科目)	—	21	0	0	—			4	5	6	0	0	0	—
	総合分野	総合理学療法学	4後	2			○			3	7	6				オムニバス
		理学療法学研究法	3後	1			○			6	6	6				集中
		理学療法学研究実践法	4通	2					○	6	6	6				オムニバス・共同(一部)
	小計(3科目)	—	5	0	0	—			6	7	6	0	0	0	—	
合計(125科目)			—	117	98	0	—			7	7	6	0	0	兼32	—
学位又は称号		学士(理学療法学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係(リハビリテーション関係)									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
1.基礎教育分野から18単位以上(「TIUコア科目」の必修科目4単位、「人間と文化」の必修科目4単位、「自然科学と環境」の必修科目2単位、「英語」の必修科目4単位、基礎教育分野の選択科目4単位以上)を修得 2.専門教育分野の専門基礎科目の必修科目31単位を修得 3.専門教育分野の専門科目の必修科目72単位を修得 4.専門教育分野の専門基礎科目及び専門科目の選択科目を9単位以上修得 5.卒業要件単位数である130単位以上修得していることを卒業要件とする。 6.履修上限単位数は各学期20単位と定める。ただし、臨床実習科目や集中講義等の授業期間外に修得する単位はこれに含めない。							1学年の学期区分		2学期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業時間		90分							

授 業 科 目 の 概 要				
(医療健康学部理学療法学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎教育分野	T I U コア科目	ICT基礎	本授業では、多量の情報が溢れる現代社会において必須となる、「情報を活用する力」の修得を目指す。具体的には、「情報を取捨選択し、活用する上でのセキュリティ意識・倫理観」、「多量の情報を加工する力」、「情報を効果的に表現する力」を中心に、講義とアプリケーションソフトの演習を通じて、社会で求められる実践的な力を修得する。授業の前半ではアプリケーションソフトの操作に習熟し、後半では官庁統計データや調査報告等の分析を実際に行うことを通じて、情報を活用する力を身につけていく。	
		大学生生活デザイン演習	本科目はキャリア教育の導入として位置づけている。将来のキャリアを見据えた行動計画の構築や、社会人としての基礎的な力の育成を目的とする。 例えば、飲食店のマーケティングプランを企画するグループワークやプレゼンテーションなど、実践をベースにした授業を通じて、主体性をもって多様な他者と協働する姿勢を身につけていく。また、授業の中で社会人へのインタビューを行うなど、実際の社会に触れながら将来のキャリアを考え、それに向けた大学生活の計画を構築する契機としている。	
	教養コア科目	人間と文化	生命倫理学	生命に関する倫理的な諸問題を適切に理解し、医療や介護予防、健康増進に関わる専門職として「命の尊さ」という基本的倫理観を身につけ、多様な価値観を持つ対象者やその家族などに対して基本的な人権を守った上で理学療法士として倫理観に基づいた対応ができるようになることを目的とする。具体的には人間とは何かについて学んだ上で、脳死、臓器移植、終末期医療、安楽死、尊厳死等生命に関わる倫理的課題を宗教、哲学、死生学、法学、医学などの面から学ぶ。
			人間関係論	コミュニケーション能力は、理学療法士として求められる基本的な資質・能力であり、大学入学時から意識的に向上させていく必要がある。本講義では、他者の考えを認知・共感・理解し、良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を養うことを目的とする。具体的には、良好な人間関係の構築の仕組みを知り、良好な人間関係を築くための条件や要因について考察し理解する。また他者の意見を傾聴し、理解した上で結論を導き、他者と協同して行動できるようにする。
			哲学	西洋近現代の哲学を、「わたし」と「世界」の関わりという問題に的を絞り、網羅的ではなく選択的に紹介する。環境との関わり方が本能的に決まっている他の生物と異なり、人間は自分（わたし）と自分を取り巻くもの（世界）との関わり方を、自分で考えて決めていかなければならない特殊な生物である。この考えが正しい加減なら世界との関わり方も正しい加減になり、考えが通っていれば、たとえ見通しのききにくい世の中でも、それなりに筋の通った生き方ができるようになる。また、哲学のさまざまな分野の中から、政治と経済の哲学を取り上げる。現代産業社会の抱えている複雑な政治的・経済的問題を原点にさかのぼって理解するため、政治と経済について思索を重ねた西洋近現代のさまざまな哲学者たちを紹介し、彼らの思想の意義や限界について批判的に考察していく。

授 業 科 目 の 概 要				
(医療健康学部理学療法学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎教育分野	人間と文化 教養コア科目	倫理学	倫理学とは、哲学の一分野である。そして、この分野に固有の問題として、善く生きること、幸福、正義などがある。本講義では、これらの根本問題を、哲学者の考え方をとおして学ぶ。私たちはふつう、ひとが幸せになるうとすることや、きまりを守ったりズルをしなかったりすることを、当たり前によいことだと思っている。それはそのとおりである。ただし、倫理学的問題は、その先にある。つまり、幸福やきまりを守ることは、なぜ「よい」ことなのか？ここである。本講義では、このような問いかけを發し、その答えを探る。	
		芸術論	芸術は社会と密接な関係にあり、芸術的視野がとても大切に思います。この授業は美術と言う分野の中で、まず色彩の理論や黄金分割に代表されるような構図法や技法など、「美しさ」の古典的・科学的根拠を探り、日常生活に活かせる美術的な力を身につけていきます。同時に今日のデジタル化社会における手作業の重要性を考えていく。	
		文化人類学	文化人類学は、フィールドワーク（現地調査）を通じて得られる人間の生の多様性に関する視点に基づき、世界の様々な環境下での人間現象をとらえる研究分野である。講義では、文化人類学の成り立ちを知り、身の回りの現象を読み解きながら、文化人類学の基本概念や理論・方法(文化人類学的な「ものの見方」)を学ぶ。講義を通じ、人間の生を可能にする多様な文化的・社会的な仕組みを理解するとともに、私たちが今どのような時代を生活しているのか、積極的に考える手がかりを得てほしい。エクササイズワークや受講コメントのフィードバックによる受講生相互の意見交換を通し、自分の「ものの見方」を知り、異なる生き方や新たな発想と結びつける感性を養っていく。	
		Introduction to American Society	(英文) This is a introductory course to American Studies. In this course students are exposed to a variety of topics including but not limited to the history and culture of the United States. (和訳) アメリカの社会について学ぶ基礎科目である。本講義では、アメリカの歴史や文化だけでなく様々なトピックについて学ぶ。	
	現代社会	法学	法学というと六法全書の堅苦しいイメージがつきまとうが、法学は決して条文の単なる丸暗記ではない。法を学ぶ上で最も大切なのは、法律的なものの考え方・思考方法、すなわちリーガルマインドである。本講義はこのリーガルマインドの一端に触れることを目的とする。世の中で実際に起きる殺人・詐欺等の犯罪事例、あるいは契約に伴う様々な問題等を取りあげながら、このようなトラブルに自分が実際に直面したとき、どう対処し解決するのかを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(医療健康学部理学療法学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎 教育 分野	教養 コア 科目	現代 社会	憲法	憲法は、国家の統治機構、統治作用、権利の保障のあり方について、定めた基本法である。憲法を理解することは、社会を形成する原理や社会が基本的価値とすべきことを理解することである。本講座では、国家の基本法としての日本国憲法に関して、「日本国憲法の歴史」を講じた上で、「基本的人権」と「統治機構」の分野に関して、論理的・体系的に把握しながら、各条項の意味について講じる。また、講義の際には、憲法との関連で注目すべき社会問題や時事問題についても可能な限り講じる。
		社会学	社会学は19世紀に実質的に始まり、20世紀に大きく発展した学問領域である。これは、この間のマクロな社会変動が必然的に社会学的思考を要請したからであった。たとえば工業化、都市化、情報化、合理化はそれ以前の伝統的社会とは大きく異なる近代社会を作り出し、それに即した社会認識の方法を必要とした。そして21世紀の今日では、高齢化やグローバル化というマクロな社会変動が進む一方で、家族の変容、雇用形態の多様化、ボランティア人口の増加などミクロな人間関係も大きく変化するなど、これまで近代を支えていた原理が大きくゆきづまり、新たな社会認識の枠組みを必要としている。本講義ではこうした認識に立って社会学の概念や枠組み、思考方法を紹介し、これまで社会学がどのように眼前の社会を認識し分析してきたのか、そして21世紀を私たちがどう作っていかばいいのかを考えていく。	
		現代の社会	現代社会のさまざまなことごとについて、身近な具体例をとおして考えていく。私たちの生活や感覚はどのように社会とつながっているのか。私たちの過去と現在について冷静に分析して、将来どのような社会になっていくのかを考える。	
		心理学概論	心理学のオーソドックスな研究分野（感覚・知覚、記憶・思考、学習、情動、動機づけ、発達、性格、社会、臨床、その他）から代表的なトピックスをできるかぎり幅広く取り上げ、実例とともに紹介する。私たちの常識的な直観に反して「心」には様々な未知のメカニズムが働いている。授業では、目の錯覚、記憶の限界、思考の盲点、種々の性格検査など、簡単な実験や心理テストを実際に体験してもらい、科学としての心理学が「心」をどのように説明してきたかを見ていく。	
	自然科学と環境	基礎統計学	(概要)医療・健康・スポーツ分野における科学的な根拠の理解では、統計学を基本に考える。基礎的な統計処理方法を理解することで、根拠に基づいて医療や健康・スポーツに関するさまざまな情報を客観的に理解することが可能となる。本講義では、統計学の基礎的な知識と解析方法の修得を主な目的とする。具体的には、統計の意義、データの種類、尺度、特性値、代表的な統計手法（平均値の差の検定、分散分析、相関、回帰、分割表に基づく解析など）について学ぶ。さらに、パソコンを用いた統計解析の方法についても講義し、統計手法の選択から統計解析結果の解釈までの一連の手順についても学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (26 竹内 宏行/3回) 統計学の基本事項について講義を行う。 (19 米澤 美園/7回) 代表的な統計手法の概要について講義を行う。 (19 米澤 美園・5 小川 哲郎/5回) (共同) 代表的な統計手法の選択から統計解析結果の解釈までの一連の手順についてパソコンを用いながら講義を行う。	オムニバス 方式・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要				
(医療健康学部理学療法学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎教育分野	自然科学と環境	環境と自然	現代社会の中で、環境保全は人類にとっての大きな課題となっている。その状況と内容を理解し、社会生活や家庭生活の中でこの課題に取り組むことは、現代人にとって必要不可欠なことである。現代の環境問題は非常に多岐にわたっている。大別すると自然保護問題（自然環境保全）と環境汚染問題である。本講義では、まず前者について、重要な概念のひとつである「生態系」について学ぶ。その上で、「生物多様性」と人間の関わりについて学び、その保全の必要性と方策を考える。次に、人類とそれを取り巻く環境・自然とのかかわりについて歴史的変遷を概観する。その上で、公害や地球温暖化などの環境汚染問題について、歴史的過程、原因とメカニズムを学ぶ。	
		情報処理の基礎	情報処理とは、データを収集し、解析し、蓄積し、情報として活用する知的活動である。この授業では情報処理をコンピュータによる情報技術の観点から講義を行う。前半では、情報とは何かから始め、コンピュータシステムを構成するハードウェアの仕組みや動作原理の基本を講義します。後半では、ソフトウェア、プログラム、プログラミング言語、言語処理などについて、その概念と基本理論を学ぶ。	
	健康とスポーツ	健康・スポーツ科学	本講義では、中学校や高等学校で習ってきた「保健体育」の講義の授業で取り上げられたテーマを参考にして授業計画を立てる。すでに学んできたことを基礎にして、より発展的にこれらのテーマに関する理解を深めていく。前半は保健領域と関係が深い「健康科学」について取り上げる。後半は体育領域と関係が深い「スポーツ科学」について取り上げる。	
		健康・スポーツ実技	競技別にクラスを設定する。競技の成り立ちやルールを学び、実践を通じてスキルを修得していく。 運動のパフォーマンスを上げる上で大切なことは基礎となる身体作りである。毎回実技の前後には、テーマに適したウォームアップやクールダウン、柔軟性を高めるためのセルフストレッチやパートナーストレッチを行い、スポーツを包括的に取り組めるようにする。敏捷性や瞬発力の向上に効果的なプライオメトリックトレーニングやクイックリフトも行う。毎回の授業前にワンポイントレクチャーを受けてから実技に入り、無理なく正しく実技を行えるように授業を進める。	

授 業 科 目 の 概 要			
（医療健康学部理学療法学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育分野	言語スキル科目 英語	Oral Communication (英文) The essence of this course is to build a strong foundation for essential communications skills. Through a program of listening and controlled dialogue work, students will become familiar with the basic grammatical structures of English, and how they are used in conversational situations. Using a text that is both amusing and instructional, the class will hopefully instill a sense of confidence, and allow students to take part in roll-playing activities and simple discussions. (和訳) 本講義の狙いは、適切なコミュニケーションスキルについてしっかりと基礎力を養うことである。聞き取りや例文を使った対話学習をとおして、英語の基礎的な文法に慣れ、また、実際の会話の中で、どのように学習したことが使われるのかを学ぶ。テキストは娯楽的内容と教育的内容の両方を含んだものを使い、学生に自信をつけさせ、ロールプレイング学習や簡単なディスカッションを行う。	
		Reading & Writing コトバとはしよせん自己表現の道具である。いっぽう、英語でその自己をどう表現したらいいか、多くの人が戸惑っているのが現状ではないだろうか。この授業では、基本的な英文作成のテクニックを学び、英語で文章を書くことに慣れつつ、自分の意見を英語で表現する能力を涵養できるように努めたい。まずは、身近なトピックについて自分の考え・感想を素直に表現していく。それを板書してもらった上で丁寧に読み、添削するといった方法を通して、まず英語を「書く」ことになじんでもらう。	
	キャリア形成支援科目 自由選択科目	インターンシップ (体験型) 1~2週間程度の就業体験を通じて、卒業後に、社会の一員として社会に適合し、どのように生き、どのように仕事をしていくかというワーキングライフについて考える。社会で働くことの意味を考え、自分自身を見つめなおし、職業適性や将来設計について考えて、新たな学習意欲の喚起につなげる。	
		インターンシップ (実践学修型) 一定期間自らの専攻、将来のキャリアに関連した会社の戦力として社員と同様に働く経験を通じて、職業観を深め、自身がこれまで学んできた知識や技術が、どれだけビジネス社会で役立つのか確認し、自分と社会人のビジネススキルの差を感じるなかで、自分の足りない点を認識するとともに、新たな目標設定を行って成長し続けられる人材の育成を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(医療健康学部理学療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育分野	自由選択科目	ボランティア活動	ボランティア活動への参加を通じて、地域連携や社会貢献活動に自発的・積極的に参画し体験することにより、協力・協調などの社会性を養い社会の問題への関心・意欲を高め、持続可能な社会に向けて環境・福祉などへの知見を身につける。また、活動を通して社会に貢献することの意味を考え、将来において継続した活動をしていくことを促進する。
		キャリア・Re-スタート	「大学生生活デザイン演習」の再履修者向けコースである。本授業のテーマは、「文章力や思考力を高めながら、東京国際大学での大学生活をどう過ごすのかを考える」ことである。ワークを通して学生一人ひとりの文章作成スキルを磨いていく。また、タイムマネジメントなども大切にしながら、第10回までは文章の書き方の型を学ぶ。「主張⇒根拠⇒念押し」の型を修得することで、今後のレポート作成などにも繋がる力をつけることができる。第11回以降は、それまで学んだことを生かしながら、「自分は今後どんな大学生活を送るのか、何にチャレンジしたいのか」を考え、文章化していく。最終的には、相手に伝わる文章を学生自身の力で仕上げることを目標とする。
		地域の安全と警察	この授業では、犯罪や事故等人に起因する危険から個人や社会を守るための行政政策を扱うもので、警察行政を中心としながら、刑事司法行政、陸上交通の事故防止に関する行政、被害児童や被害女性の保護等の教育・厚生関係行政に加え、安全な公共空間の設計に関する行政等犯罪や事故の生じにくい環境づくりに関する行政にも触れる。また、これら行政の主要な目的としては、犯罪の統制・予防であるが、犯罪者だけではなく、犯罪のもう一方の当事者である被害者と犯罪の発生する環境に置くとともに、犯罪の予防政策を中心に議論を展開していく。
		観光まちおこしワークショップ入門	日本の多くの地域では、住民・行政・企業・大学などが密接に連携・協力して、その地域を元気にしていくことが求められています。本科目では、このような活動に必要な「観光を活用したまちおこしの基本」をフィールドワークやグループワークを通じて学修する。特に私たちの大学がある川越の地域特性、歴史、観光資源を学び、他地域の地域特性と比較しながら川越の課題点を見つけていくことを授業のゴールとする。
		観光まちおこしワークショップ実践A	大学・地域が一体となり、「まちおこし」を実施する上で重要な知識・スキルをプロジェクト形式で学習する。授業の前半では、実際にまちへ出かけ、地域課題の発見や観光によるまちおこしの可能性を模索する。授業の後半では、実際にまちで見聞したものを「まちおこし事業」として実践計画にまとめ、クラス内で発表を行う。まちおこしに必要な「マーケティング力」、「利害調整力」、「事業計画書作成力」についても力を入れて学習する。

授 業 科 目 の 概 要			
(医療健康学部理学療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育分野	自由選択科目	プロジェクト科目	観光まちおこしワークショップ実践B この科目は、川越の魅力を発見・整理し、外国人観光客へPRすることを体験するプロジェクト型授業である。実際に街へでかけ、小江戸川越の魅力・地元産品の良さを発掘し、それらを外国人観光客へ伝えるために、やさしい日本語または英語による観光リーフレットやポスター等を制作する。また、作ったリーフレットやポスター等に対して外国人の視点からの評価を通してグローバル社会での情報発信の方法を学ぶ。受講者は、以上のような活動を通じて、国際交流の重要性を理解するとともに、グローバル社会に対して情報発信できる力を身につけることが可能となる。
			観光まちおこしワークショップ実践C この講座を通じて、受講生は地域貢献活動（小江戸かわごえまちおこし）の企画立案を行う。どうすれば、若者が川越のまちに出かけるようになるか？商店街を活性化するための方策は？外国人観光客を増やす秘策は何か？など、地域課題を探し、解決策を検討する。また、講座では社会人に必要な基礎的能力となる課題解決思考能力及び、コミュニケーションスキルの向上も図り、グローバル人材の育成を目指す。
			観光まちおこしプロジェクトA 全国の大学生が集う「大学生観光まちづくりコンテスト」に参加する授業である。本コンテストの概要は、全国の大学生が全国各地へフィールドワークとして出向き、地域の課題を発見し、自分達らしい解決策を考えだし、その内容を企画書にまとめ、人前でプレゼンテーションするというもの。このような経験を通じて、この科目では、実践的な課題発見力、チームワーク力、プレゼンテーション力を身につける。また、グループワークとフィールドワークが多い授業となっている。
			観光まちおこしプロジェクトB 大学がある川越市の地域活性化を企業や川越市と連携して実践する。具体的には、川越市の魅力を発信するPR動画を作ることや観光客を呼ぶ込むためのガイドブックを作成すること、観光客向けにイベントを開催することといった内容である。この科目をとおして主体性、チームワーク力、実行力、プレゼンテーションスキルなどを身につける。また、本科目は、グループワークとフィールドワークが多いため、集中授業の形式で行われる。
			観光まちおこしプロジェクトC 「観光」をテーマに、行政や企業と連携して、「地域課題の解決」、「観光まちづくり」を実際に経験する。行政、企業などの担当者と定期的にプロジェクト会議を開催し、実際に観光を活用してどのように地域を作っていくか、地域の課題を解決するかを議論し実践する。具体的には、国土交通省、河川財団、川崎市やその他の企業と協力して、多摩川の刈草から燃料を作り、どのように商品化をするかを学生主導で検討・実践していくことや、地元小学生との交流会を実施する。

授 業 科 目 の 概 要					
(医療健康学部理学療法学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門教育分野	専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	運動解剖学	「解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の講義で修得した知識を基に、運動メカニズムを解剖学の観点から説明するために、身体を構成する組織と器官の構造と機能について理解する必要がある。身体運動を理解するために重要な関節の種類とその構成要素、四肢や体幹の関節運動のメカニズムを学ぶ。さらに生体の組織・機能解剖や生理学的な機構や運動器官が活動するためのエネルギー産生の理論や力学の基礎原理について学ぶ。骨・関節の運動や体幹、上肢、下肢の運動を個々の筋肉の運動と捉え、様々な筋肉の相互作用として捉える視点を養う。身体全体の運動を個々の筋・骨格の運動として分析できる基礎能力を養う。	
			運動学	理学療法をおこなう上で、身体運動の基本メカニズムを理解している必要がある。本講義では、人間の運動を細分化し、その基本的なメカニズムに関する知識の修得を目指す。本講義の学修目標は、理学療法の実施に必要な不可欠な知識である四肢や体幹などの関節運動のメカニズム、生体力学の基礎、姿勢制御メカニズム、歩行制御メカニズム、運動の発達、運動の学習について理解し、説明できるようにすることとする。	
			運動学実習	理学療法をおこなう上で、身体運動の基本メカニズムを理解している必要がある。本実習では、「運動学」の講義で学修した身体運動の基本的なメカニズムについて、実習を通じてその理解を深める。本実習の学修目標は、実験機器（三次元動作解析、動作筋電図、誘発筋電図、重心動揺計、床反力計、筋力測定器等）の計測原理の理解、計測・解析方法の理解、データの解釈の仕方の修得、結果報告の方法の修得である。授業では、少人数のグループを形成し、事前に決められた課題に取り組み、レポートおよびプレゼンテーションによる報告を行う。	共同
			運動生理学	(概要)「生理学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ基礎知識を踏まえて、運動に対する生体の反応および機能的・構造的適応について理解を深める。また、活動（運動）を継続するメカニズムについて理解することを目指す。 (オムニバス方式/全15回) (⑭ 猪股 高志/11回) 運動生理学と理学療法の関連性、酸素運搬系、神経系と身体運動の関連、筋収縮とエネルギー産生、運動と呼吸・心血管応答、運動における内分泌系の役割、運動と認知機能、運動と環境、吸気筋・呼気筋トレーニング、求心性・遠心性収縮トレーニングに関する講義を担当する。 (⑮ 戸島 美智生/4回) トレーニングの原理・原則、運動様式と効果、レジスタンストレーニング、全身持久力トレーニング、one-leg exerciseとcross educationに関する講義を担当する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(医療健康学部理学療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育分野 専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ 人体の機能や病態を理解するためには、正常な人体の構造をよく理解している必要がある。本講義では、人体を構成する組織と器官・器官系の構造に関する知識と生理学で学修する人体の機能との関連について学ぶ。「解剖学Ⅰ・Ⅱ」では、理学療法に特化することなく、上皮・結合・筋・神経組織という人体を構成する組織に関する知識から器官系（外皮系、骨格系、筋系、神経系、呼吸器系、循環器系、消化器系、生殖器系など）、ヒトの発生まで広く人体の構造を学び、将来理学療法がどのように展開・発展しようとも対応できる人体解剖学の基礎知識を身につけ、また、それを説明できるようになることを本講義の学修目標とする。「解剖学Ⅰ」では人体の組織・器官等に関する基礎知識から神経系までを学修する。	
		解剖学Ⅱ 人体の機能や病態を理解するためには、正常な人体の構造をよく理解している必要がある。本講義では、人体を構成する組織と器官・器官系の構造に関する知識と生理学で学修する人体の機能との関連について学ぶ。「解剖学Ⅰ・Ⅱ」では、理学療法関連に特化することなく、上皮・結合・筋・神経組織という人体を構成する組織に関する知識から器官系（外皮系、骨格系、筋系、神経系、呼吸器系、循環器系、消化器系、生殖器系など）、ヒトの発生まで広く人体の構造を学び、将来理学療法がどのように展開・発展しようとも対応できる人体解剖学の基礎知識を身につけ、また、それを説明できるようになることを本講義の学修目標とする。「解剖学Ⅱ」では神経系からヒトの発生までを学修する。	
		解剖学Ⅲ 人体の機能や病態を理解するためには、正常な人体の構造をよく理解している必要がある。本講義では、理学療法を行う上で特に重要な筋・骨格系、神経系を中心に、「解剖学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ知識の確認をしつつ、また、生理学で学修する機能に関する知識を踏まえながら、より深く学ぶ。具体的には、骨学、筋学、脳・脊髄の構造と機能、感覚受容器と感覚の伝導路、脳神経や自律神経系の構造と機能などについて学ぶ。複雑な人体の構造と機能に関する知識を深め、これらを説明できるようになることを学修目標とする。	
		解剖学実習Ⅰ 人体の機能や病態を理解するためには、正常な人体の構造の理解が必要である。人体の構造を理解するための講義「解剖学Ⅰ・Ⅱ」では構造に関する用語や働きを学ぶが、その立体的な構造や位置関係を正確に理解することは容易ではない。本実習では、実際に人体の模型を触れることで、構造を詳細に観察し、それらの理解を深める。また、発表のための資料を作成し、学んだ内容について他者に説明する実習成果発表を行う。本実習の学修目標は、人体の各構造・器官を同定し、その構造と立体的な位置関係を理解し、また、作成した資料を使って説明することができるようになることである。「解剖学実習Ⅰ」は、理学療法を行う上で特に重要な筋・骨格系の構造に関する実習を行う。	共同

授 業 科 目 の 概 要					
(医療健康学部理学療法学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門教育分野	専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学実習Ⅱ	人体の機能や病態を理解するためには、正常な人体の構造の理解が必要である。人体の構造を理解するための講義「解剖学Ⅰ・Ⅱ」では構造に関する用語や働きを学ぶが、その立体的な構造・位置関係を正確に理解することは容易ではない。本実習では、実際に人体の模型に触れることで、構造を詳細に観察し、それらの理解を深める。また、学んだ内容について他者に説明する実習成果発表を行う。発表のための画像を用いた資料を作成する。本実習の学修目標は、人体の各構造・器官を同定し、その構造と立体的な位置関係を理解し、また、作成した資料を使って説明することができるようになることである。「解剖学実習Ⅱ」では、筋系、神経系さらに胸腔および腹腔内の器官に関する実習を行う。	共同
			心身機能発達学	(概要)理学療法はあらゆるライフステージの方を対象とすることから、胎児期、乳幼児期、小児期、青年期、成人期、老年期といったライフステージの特徴を学ぶことは重要である。この発達過程を理解し、運動獲得や言語、精神発達の基礎を学ぶ。理学療法の取り組む課題や方法が年齢により異なることを発達課題から包括的に学ぶ。身体の発達と成長著しい乳児期と幼児期を学ぶ。次に、青年期以降の身体構造の変化について理解を深め、年齢と性差による人間の基礎理解を養う。老年期の加齢の機能変化について、運動機能や日常生活、身体活動を理解して、生活の自立と社会参加について学修する。 (オムニバス方式/全15回) (⑮ 芝原 美由紀/11回) 人間の発達学、ライフステージと発達課題、機能の発達、社会生活活動の発達等に関する講義を担当する。 (⑭ 猪股 高志/4回) 加齢による機能変化に関する講義を主に担当する。	オムニバス方式
			生理学Ⅰ	疾患及び障害の病態を理解するためには、正常な人体の構造と機能をよく理解している必要がある。解剖学に関する講義では、人体の構造について学ぶが、「生理学Ⅰ・Ⅱ」の講義では、特に人体を構成する諸器官の機能に関して学ぶ。本講義では、生命現象の理解に必須である基本的な分子(核酸・タンパク質・糖・脂質)の構造とそれらの働きと生体膜を介した現象(膜電位・活動電位)の理解から始まり、細胞、器官・器官系の機能について広く学ぶ。本講義の学修目標は、解剖学で学んだ人体の構造に関してそれらの機能を理解し説明できるようになることとする。「生理学Ⅰ」では、生命現象の理解に必須となる基礎的内容と理学療法を行う上で特に重要な筋・骨格系、神経系に関する内容を学ぶ。	
			生理学Ⅱ	疾患及び障害の病態を理解するためには、正常な人体の構造と機能をよく理解している必要がある。解剖学に関する講義では、人体の構造について学ぶが、「生理学Ⅰ・Ⅱ」の講義では、特に人体を構成する諸器官の機能に重点をおいて学ぶ。本講義では、生命現象の理解に必須である基本的な分子(核酸・タンパク質・糖・脂質)の構造とそれらの働きと生体膜を介した現象(膜電位・活動電位)の理解から始まり、細胞、器官・器官系の機能について広く学ぶ。本講義の学修目標は、解剖学で学んだ人体の構造に関してそれらの機能を理解し説明できるようになることとする。「生理学Ⅱ」では、血液、呼吸器系、循環器系、消化器系、内臓器系、免疫に関する内容を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要					
(医療健康学部理学療法学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門 教育分野	専門 基礎科目	人体の 構造と 機能及 び心身 の発達	生理学実習	疾患及び障害の病態を理解するためには、正常な人体の構造と機能を理解している必要がある。本実習では、「生理学Ⅰ・Ⅱ」の講義で学修する人体の機能に関する内容からいくつかの項目を選び、バイタルサイン、スパイロメーター、反応時間、フリッカー検査、筋電図などの実習課題に取り組む。実習で得られるデータの意味を理解し、考察を行い、実習成果を発表することとする。発表会を通して科学的な説明・考察をおこなう能力を養う。また、EBM（科学的根拠に基づく医療）の理解を深めるためのデータの扱いを学ぶ。少人数のグループで取り組むことでチーム医療に必要な協調性を養う。	共同
		疾病と 障害の 成り立 ち及び 回復過 程の促 進	医学一般Ⅰ	医学の基本として、医学の歴史・生命と医の倫理、疾病の概念と診断、画像検査、病理、疾病の治療を理解し、疾病に対する診断と治療の基礎を学び、医療事故やリスクを認識し、対象者にとって安全な理学療法を保證できる能力を養うことを目標とする。さらに臨床医学の理解を深めるため、各種疾患と障害と薬物療法を理解する。具体的には呼吸器、循環器、内分泌・代謝、消化器、栄養・代謝、血液、感染症などの各疾患に対する病因、検査、治療、薬物療法、予後を学ぶ。また、病態像と検査(画像・生理検査)と診断、その基本的な治療について幅広く理解した上で、理学療法の評価に必要な臨床検査データの読み方に関する知識も学ぶ。	
		医学一般Ⅱ	(概要)「医学一般Ⅰ」の基礎知識を基に理学療法の対象となる障害を引き起こす主な疾患の疫学や予後、病因と病態生理、診断と治療について学ぶ。臨床医学の理解を深めるため、各種疾患と障害と薬物療法、外科療法を理解する。 (オムニバス方式/全15回) (⑦ 岩瀬 利郎/9回) 救命救急、アレルギー疾患・免疫不全症、腎・泌尿器疾患、婦人科疾患、産科疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉科疾患、老年医学に関する講義を担当する。 (3 高井 信朗/6回) 外科・脳外科総論、リウマチ・膠原病疾患、皮膚科疾患、先天異常に関する講義を担当する。	オムニバス 方式	
		栄養学	理学療法を進めていく上で栄養との関連は大変重要なことであるため、理学療法士には患者の健康をサポートするための栄養学に関する幅広い知識が必要不可欠である。本講義では、健康維持・増進や疾患予防を含めた治療のための栄養に関する知識を学ぶ。授業では、栄養素の消化・吸収、代謝、必要量、栄養成分に特徴のある食品などについて学び、さらに摂食・嚥下障害、サルコペニア・ダイナペニア、悪液質などの病態に対する栄養療法やNSTについて学ぶことで、リハビリテーションにおいて必要不可欠な栄養学の知識を理解する。		

授 業 科 目 の 概 要			
(医療健康学部理学療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育分野 専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	画像診断学	画像診断は、疾患の病態生理を可視化する極めて重要な手段である。薬物や放射線治療、手術治療はもとより、理学療法によるリハビリテーション計画を作成する上でも画像診断は欠かせない。画像診断学では、中枢神経疾患、神経内科疾患、循環器・呼吸器疾患等をエックス線、MRI、CT、超音波、血管造影などの映像より解釈する手順を学ぶ。さらに、理学療法士国家試験に出題された画像問題について、解剖学的位置関係と関連付けて学修する。理学療法士が知っておくべき画像診断の知識としては、脳血管・神経変性疾患の部位診断(梗塞・出血・変性部位と機能欠損)と、脊髄・脊椎疾患、骨関節疾患が最も重要となるが、後者は「整形外科学Ⅰ・Ⅱ」の授業の中で行われる。本授業では、脳血管・神経変性疾患の部位診断に加えて、胸部疾患(肺炎、腫瘍、COPD)、腹部疾患、消化管・動脈疾患を取り扱う。	
	救急救命医学	(概要)理学療法をおこなう上で、緊急を要する疾患・外傷の基礎的な知識と心肺蘇生・応急処置の知識を身につけている必要がある。本講義では、救急医療体制、心肺蘇生法、各症状別応急処置、創傷処置について学ぶ。本講義の学修目標は、救急救命医学に関するこれらの知識を理解し、説明できるようになることとする。 (オムニバス方式/全8回) (3 高井 信朗/4回) 応急処置の基本に加えて、整形外科領域の応急処置(骨・関節・筋肉の損傷、創傷と出血、皮膚の異常、咬傷、刺虫症等)の講義を主に担当する。 (⑦ 岩瀬 利郎/4回) 心肺蘇生に加えて、神経系の障害、呼吸・循環器系の障害、急性腹症、その他の腹部疾患、急性中毒等の応急処置に関する講義を担当する。	オムニバス方式
	公衆衛生学	理学療法をおこなう上で、疾病の治療を目指す臨床医学のみならず、疾病予防および健康維持・増進を主目的とした公衆衛生学の知識を習得する必要がある。本講義では、各ライフステージに特有な健康に関する諸問題や疫学統計の基礎について学ぶ。本講義の学修目標は、予防医学の役割と意義、疫学統計の基礎について理解し、説明できるようになることとする。それに加えて、統計資料や研究論文を適切に読み解く能力を同時に習得することを目標とする。	
	疾病予防と健康増進	わが国では、21世紀において日本に住む一人ひとりの健康を実現するための国民健康づくり運動(健康日本21)が2000年より推進され、この中で生涯を通じた健康づくりの必要性が述べられている。すなわち高年期(老年期)だけでなく、幼年期、少年期、青年期、壮年期、中年期のすべての段階において、疾病・傷害予防と健康増進の重要性が高まってきている。今後、理学療法士は一層予防の面での関わりが求められることを予測すると、それぞれの発達段階における健康増進、健康管理ならびに疾病予防のあり方について学ぶ必要があると考えられる。本授業では、発達の各段階における身体的特徴や疾病の特徴、段階間の関連について理解を深め、理学療法士の専門性を活かした疾病予防対策や健康増進方略についての考え方を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(医療健康学部理学療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育分野 専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	神経内科学Ⅰ	理学療法をおこなう上で、神経内科疾患、中枢神経、末梢神経・筋の障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断を理解することが大切である。神経内科疾患の病態の理解により、患者の障害に対する理学療法士としての対応を学修する。「神経内科学Ⅰ」では主として症候学を中心に基礎的、総論的な内容を扱う。	
	神経内科学Ⅱ	「神経内科学Ⅱ」では「神経内科学Ⅰ」の内容を受けて、各神経疾患の具体的、各論的内容を扱う。「神経内科学Ⅰ」の基礎知識を基に、理学療法の対象となる障害を引き起こす各種神経内科疾患の疫学や予後、病態像と検査(画像・生理検査)、診断と治療について理解し、理学療法の評価と基本的な治療について学ぶ。	
	整形外科Ⅰ	寝たきりにならず健康寿命を延ばすためには、運動器疾患、運動器リハビリテーションの理解が理学療法士にとって欠かせない知識である。また生涯を通じてスポーツ活動を実践し、健康な生活を送るためにも運動器、整形外科の知識は重要である。本講義では、骨関節障害を引き起こす主な疾患の疫学、骨関節障害の一般的疾患、予後、病因、症候、急性痛・慢性疼痛、検査(画像・生理検査)、診断、治療、リハビリテーション医療、薬物療法を理解することを目標とする。具体的には、骨関節障害の一般的疾患として、変形性関節症、人工関節置換術後、骨折、脱臼、靭帯損傷、関節リウマチとその近縁疾患、スポーツ損傷、脊椎疾患(椎間板ヘルニア、脊椎症を含む)、腰痛症、切断(先天奇形を含む)、肩関節疾患(肩関節周囲炎、腱板損傷を含む)、骨粗鬆症について学ぶ。	
	整形外科Ⅱ	整形外科の基礎知識を基に理学療法の対象となる障害を引き起こす主な疾患の疫学や予後、病態像と検査(画像・生理検査)、診断と治療について理解し、理学療法の評価と基本的な治療について学ぶ。また、痛みを引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。具体的には、急性痛・慢性疼痛の疫学、予後、病因、症候、検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療、リハビリテーション医療について学ぶ。慢性疼痛の分類として、一次性慢性疼痛(非特異的腰痛、線維筋痛症などを含む)、がん性慢性疼痛、術後および外傷後慢性疼痛(複合性局所疼痛症候群; CRPS などを含む)、慢性神経障害性疼痛(帯状発疹後神経痛、三叉神経痛、視床痛、幻肢痛などを含む)、慢性筋骨格系痛、その他の慢性疼痛(慢性頭痛、慢性口腔顔面痛、慢性内臓痛などを含む)を学ぶ。	
	精神医学	精神医学の基礎知識と各精神疾患の原因・病態・治療法を学び、理学療法士として必要な精神疾患患者及び精神障害者に対する理解を深め、精神症状を合併する患者に理学療法を行う際の正しい知識と姿勢を身につける。授業では、疫学、予後、病因、症候、検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療、リハビリテーション医療、精神障害の一般的疾患、薬物療法について学ぶ。特に、統合失調症・認知症・双極性障害等の重要な疾患は十分な知識を得られるよう比重をやや大きくした。	

授 業 科 目 の 概 要			
(医療健康学部理学療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育分野 専門基礎科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学 病理学の知識は、整形外科や神経内科学等の臨床医学の知識の基盤となるため、理学療法を行う上でも極めて重要である。本講義では、様々な疾患がどのような原因で、どのようにして生じるか、またどのような異常につながるかについて、体系的な知識を修得することを旨とする。本講義の学修目標は、様々な疾病の成り立ちを総合的に理解し、説明できることとする。授業では、細胞・組織損傷、炎症、感染、腫瘍、病因論や病理学的変化、廃用症候群、生体反応等について取り扱う。	
		薬理学 理学療法を実施する上で、医師が対象者に処方している薬物療法に関する知識を習得しておく必要があります。本講義では、薬物の作用機序や投与方法、体内動態に関する基本的事項を理解した上で、対象疾患（運動器系疾患、神経系疾患、呼吸・循環器・代謝系疾患やその他の疾患）に関連する薬物療法の考え方、副作用や多剤服用（ポリファーマシー）に関する知識の習得を目指します。本講義の学修目標は、薬物の基本事項、各種疾患に対する薬物療法、薬物の副作用と多剤服用の危険性（多剤との相互作用）について理解し、これらを説明できるようになることです。	
		臨床心理学 人のこころの在り方や構造、発達のしかたの理解は、現代医療においてますます重要になってきている。本講義では、人を理解する方法である心理査定と、援助する方法である心理療法（カウンセリング）を学ぶ。本講義の学修目標は、患者の立場や心理、それに関わる援助者の心理、心理検査の目的と方法、心理療法や集団精神療法を理解することとする。授業では、心理の評価法や介入技法、精神分析・力動論、行動論・認知論、心理支援の対象領域などについて取り扱う。	
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	健康ビジネス論 予防理学療法分野における理学療法士の役割を理解した上で、理学療法士が介護予防健康ビジネスを行うために学ばなくてはならないとされるマーケティング、販売促進、顧客管理、予算管理、コスト管理、プログラム管理、人事、教育、施設管理、関連法規等の経営基礎知識について理解する。さらに、理学療法士が経営する上で必要な起業に関する法律の知識に関連付けて、国内および海外ビジネスの例を紹介する。更に、様々な介護予防健康ビジネス等の経営実態、理学療法士としての関わり方も事例紹介する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(医療健康学部理学療法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育分野 専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念	社会福祉概論	本講義では、社会福祉における人として暮らしていく時に欠かせない基礎的な生活要求や健康的かつ文化的な要求を保障する福祉の概念を学ぶ。特に国民の社会生活を支える基盤である各種社会福祉制度、社会保障制度、援助方法、及び医療制度について理解を深める。同時に理学療法学やリハビリテーション医学は、乳幼児や高齢者、障害者などの社会的弱者に対して医療技術の提供だけではなく福祉の増進と生活の再建に大きく関わる学問である。そこで、医療職である理学療法士は、社会福祉の重要性を理解し、理学療法の実施場面で対象者に適した福祉制度を紹介できる立場にあることを理解する。同時に社会福祉関係者の業務内容や連携の重要性を学ぶ。	
	地域包括ケアシステム論	日本は世界の中でも急激に高齢化が進行し、従来の社会保障制度に加えて新たに取り組む必要がある。その課題に国は、高齢者の尊厳の保持と自立生活支援を目的に地域で包括的なサービスの提供体制「地域包括ケアシステム」の構築を推進している。これは、高齢者が可能な限り自分らしい暮らしを住み慣れた地域社会の中で続けるという目的を掲げている。理学療法士は、医療、福祉、保健等の様々な領域の専門職種としてとしてどのように取り組むか、対象者への支援方法と多職種連携について、実践しているモデルから理解を深める。	
	チーム医療論	本講義では、理学療法士がチーム医療を構成する一員としての自覚や基本姿勢を学ぶ。また他の専門職に対する理解を得るために各職種がどのような働きをするのかについて講義する。グループディスカッションを通して医療現場のリハビリテーションチームとしての多職種連携について学んだ上で、理学療法の実施における他職種との業務調整を学ぶ。また、地域における保健・医療・福祉領域の多職種連携のあり方についても学ぶ。さらに対象者・他職種との利害衝突ならびにコンフリクトマネジメントについてもグループディスカッションを通して学ぶ。	
	リハビリテーション概論	リハビリテーションの歴史的背景を知り、その理念を理解し、リハビリテーションや保健・医療・福祉分野における基本的な概念や定義、特徴について学ぶ。健康と生活機能の評価について、医学的情報（病理・生理・画像診断を含む）、心身機能・身体構造、活動、社会参加、背景因子（環境因子および個人因子）について学ぶ。リハビリテーション計画について、リスク管理、機能的帰結の予測、リハビリテーションプログラムの立案について学ぶ。障害の考え方の変遷や患者および障害者の権利、障害文化や障害者スポーツについても学ぶ。リハビリテーションは全人間的復権であることを理解し、専門職としての倫理やチームアプローチの重要性について理解する。	

授 業 科 目 の 概 要					
(医療健康学部理学療法学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門 教育分野	専門 科目	基礎理学療法学	理学療法に必要な基礎科学である解剖学と生理学のうち、特に運動療法と関わりの深い身体ならびに身体器官の形態と機能の基礎を学ぶ。具体的には、①筋収縮・筋肥大・筋萎縮のメカニズム、②運動における神経系の役割、③運動と栄養、④加齢による身体機能の変化について学ぶ。さらに、理学療法を行う上で必要な知識である機能障害の病態やそのメカニズムを学ぶ。具体的には、①筋力低下（筋萎縮含む）、②関節可動域制限、③疼痛、④運動麻痺、⑤感覚異常、⑥筋緊張異常、⑦平衡機能異常、⑧認知機能低下、⑨骨損傷、⑩靭帯損傷等の病態とそのメカニズムについて学修する。1年次配当科目であるため、他の基礎科目の進行を考慮しながらなるべく平易にかつ関連付けて講義を行う。		
			基礎理学療法学 演習Ⅰ	理学療法を学ぶ大学生として必要なリテラシーと態度を身につけ、社会人として求められる規範や法令を守るための「倫理観・公德心」に加え自律性と主体性を養うことにより社会に貢献しうる専門職としての素養を身につけることが本演習の目的である。大学で学ぶためのリテラシーについては基本的に講義を通して身につけさせ、演習では、電子メールの送り方、「模擬授業を聴き文章にまとめる」などノートの取り方、「テーマに沿って情報を収集する」など、主体的に学ぶ方法を身につける。さらに、小グループでのディスカッションを通して学ぶ方法も身につける。また、理学療法を学ぶ上で早期に理学療法士の仕事に触れることはモチベーションを高める上でも大変重要であり、近隣の医療施設における3日間（講義2回分×3日）の臨床見学を行い、その内容についてプレゼンテーションを行う。	演習18時間 実習12時間
			基礎理学療法学 演習Ⅱ	「基礎理学療法学演習Ⅰ」の続きとしてラーニングスキルを向上させるための講義を行う。理学療法の概要と理学療法士の役割を理解し、そのアイデンティティーについて考え理学療法士としての基本的資質を涵養することを目的とする。基本的に課題を解決するためにグループワークならびに情報収集を行いグループとしての意見をまとめ、最終的には課題ごとにプレゼンテーションを行う。医療・福祉に関する社会的諸問題とその解決方法、理学療法に関する日本における問題と提案についてのグループワークを通して、理学療法士の役割と今後の拡がり、アイデンティティーと必要な資質について考察する。	
			生体観察と触診法	正確な医学検査・評価および治療の基盤は、適切に視て触れる技術に他ならない。特に、理学療法士の診療業務のほとんどが手を媒体として行われている以上、触診は磨かないといけない技術の最たるものである。本講義では、「解剖学Ⅰ」で学んだ内容を踏まえて身体の観察と触診を実際に行い、その基本技術を修得する。本講義の学修目標は、身体の主要な部位の観察と触診を瞬時に正しくできることとする。授業では、アライメントや姿勢の観察と、骨や関節、筋、腱、靭帯等の触診を行う。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（医療健康学部理学療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育分野	専門 科目	基礎 理学療法 学	理学療法学概論
		<p>（概要）理学療法士はあらゆる年齢、健康・障害レベル、生活の場を持つ人びとの健康で自立した幸福な生活の実現に貢献することを使命とする。その学問的背景となる理学療法の全体像を理解するために理学療法の概念、歴史、対象、方法、理論的背景、世界の理学療法、理学療法士としてのアイデンティティ、理学療法の法的根拠などについて学ぶ。理学療法の対象と理学療法で行われる評価の概要に加え、理学療法介入の概要について主要な疾患や障害を例にオムニバス方式で説明する。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>⑭ 猪股 高志/6回） リハビリテーションと理学療法の定義と歴史、理学療法士関連法、理学療法士の役割と職域、理学療法の適性と倫理、国際障害分類と国際生活機能分類、クリニカル・リーズニング、理学療法の進め方等について講義を行う。</p> <p>⑯ 志村 圭太/1回） 日本と世界の理学療法の違いについて講義を行う。</p> <p>⑩ 二宮 省悟/1回） 身体計測、関節可動域、筋力検査法の概略について講義を行う。</p> <p>⑨ 諸角 一記/1回） 神経系の検査（感覚・反射検査・高次脳機能・筋電図など）について講義を行う。</p> <p>⑬ 金崎 雅史/1回） 呼吸、循環器系の評価・発達検査・活動評価・動作分析について講義を行う。</p> <p>⑪ 戸島 美智生/1回） 運動療法の定義・概略、基本的な運動療法の目的と方法について講義を行う。</p> <p>② 武田 要/1回） 主要な骨関節系疾患の概要と、それらに対する理学療法の概要について講義を行う。</p> <p>① 杉本 諭/1回） 中枢神経系疾患（主に成人片麻痺）の概要とそれらに対する理学療法の概要について講義を行う。</p> <p>⑱ 窪田 智史/1回） スポーツ外傷・障害の概要とそれらに対する理学療法の概要について講義を行う。</p> <p>⑫ 川崎 翼/1回） 予防理学療法の概要について講義を行う。</p>	オムニバス 方式

授 業 科 目 の 概 要			
(医療健康学部理学療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育分野	専門科目 基礎理学療法学	理学療法学特論 (概要)近年、病院やクリニックなどの医療機関に加えて、予防分野やスポーツ分野などで活躍している理学療法士が増えている。本講義では、理学療法学科の3つの履修モデルとして挙げた「臨床理学療法」、「スポーツ理学療法」、「予防理学療法」に対応させて、仕事の内容や最新の研究内容について各分野に精通した教員がオムニバス方式で講義を行う。本講義の学修目標は、理学療法の各分野の特徴について理解し、説明できるようになることとする。また本講義を通じて、理学療法士の免許取得後のキャリアデザインについて自分自身の考えを持ち、他者に伝えることができるようになることを目指す。 (オムニバス方式/全8回) (14) 猪股 高志/ (1回) 卒後の進路について講義する。 (9) 諸角 一記/ (1回) 一般病院 (老人病院含む) リハ専門病院 大学病院クリニック等の理学療法業務について講義する。 (15) 芝原 美由紀/ (1回) リハセンター・小児施設等の理学療法業務について講義する。 (19) 米澤 美園/ (1回) 介護老人保健施設 特別養護老人ホーム等の理学療法業務について講義する。 (18) 窪田 智史/ (1回) スポーツ理学療法分野の理学療法士の業務について講義する。 (12) 川崎 翼/ (1回) 健康増進・疾病予防等の予防理学療法分野の理学療法士の業務について講義する。 (1) 杉本 諭/ (1回) 介護予防等の二次・三次予防における理学療法士の業務について講義する。 (17) 一寸木 洋平/ (1回) 教育・研究分野における理学療法士の業務について講義する。	オムニバス方式
		理学療法文献講読 日々、新しい理論や技術が見いだされる医療分野では、研究報告や成果発表で意見交換が行われる。理学療法士として、自ら新しい知識や技術を取り入れ、知識の充実や技術の向上は重要である。本授業では、最新の理学療法研究報告、症例検討、調査報告を論文や文献を使用し、教員のファシリテーションにより熟読し、科学的根拠の重要性を理解する。本過程で得られる知識から、研究計画の立案や根拠ある理学療法の実践に結びつく資質を養う。	
		理学療法臨床英語 理学療法士が医療機関に勤務する場合、カルテからの情報収集やカンファレンスなどの場面で医療英単語および略語を見聞きすることは多い。また、近年グローバル化に伴い、我が国においても日本語を母国語としない外国人に対し理学療法を提供する機会が増加しており、理学療法実施のための基本スキルとして世界共通語である英語力が求められる。本科目では、他職種との情報交換や英語論文の読解のために必要な医療英単語や、リハビリテーション場面で用いられる英語表現について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(医療健康学部理学療法学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育分野	専門科目	理学療法管理学	理学療法士及び作業療法士法ならびに関連職種に関する資格法との関係を学び、法規による理学療法士の社会的な位置づけを理解する。医療、保健、福祉領域の各種法規ならびにコンプライアンスについて学ぶ。共に働く関係職種との連携で、専門職種として果たすべき役割と責任を理解し、意見調整とまとめ役としてマネジメントの重要性を知る。対象者の個人情報や医療情報の保護と取り扱いについて学ぶ。法令遵守を理解し、理学療法士の責任を知る。また、起こる可能性がある医療事故やリスクを認識し、安全な理学療法実施について学ぶ。	
		機能・能力評価学Ⅰ	理学療法を行うにあたって、対象者を正確に評価する技術は不可欠である。このため、本講義では理学療法の疾病の種類に関係なく共通する理学療法評価の基本的な知識の修得を目指す。本講義の学修目標は、評価技術の定着に先駆けて、基本的な理学療法評価の方法とその評価結果の解釈、注意点およびリスクについて理解することとする。具体的には、各種情報収集、問診、視診、触診をはじめ、形態測定、関節可動域、徒手筋力検査を行う。	
		機能・能力評価学実習Ⅰ	理学療法を行うにあたって対象者を正確に評価する技術の修得は不可欠である。このため、「機能・能力評価学Ⅰ」で学んだ知識を基にして、基本的な評価技術の定着を目指す。本講義の具体的な学修目標は、学生間による実技にて、各種情報収集、問診、視診、触診をはじめ、形態測定、関節可動域、徒手筋力検査に関するオリエンテーションならび実施が適切に行えることとする。実技を通した繰り返し経験によって、これらの評価技術が理学療法の臨床において円滑に実践できるよう授業を展開する。	共同
		機能・能力評価学Ⅱ	評価とは、種々の検査・測定を通じ情報収集し、その結果を統合・解釈することで、対象者のもつ障害とその程度を把握する一連の過程をいう。この過程は、効果的な理学療法を実施するうえで極めて重要な位置づけにある。本講義では、各種評価の目的と臨床的意義を理解し、評価結果の統合と解釈、治療到達目標の設定、理学療法プログラムの立案につながる臨床推論の基本的な流れが展開できる素地を養う。授業では、意識レベルの検査、知覚検査、筋トーン検査、反射検査、脳神経検査、協調性検査、片麻痺運動機能検査、姿勢反射・バランス検査、高次脳機能検査などを通じて、評価の一連の流れを学ぶ。	
		機能・能力評価学実習Ⅱ	「機能・能力評価学Ⅱ」で学修した内容を踏まえ、各種検査の目的、具体的方法、結果の統合と解釈を整理したうえで実践し、その検査技術を修得する。検査項目には、様々な疾患に共通して行われるものと、疾患特有の症状を確認するために行われるものがある。また、同じ検査項目であっても、疾患特性に応じて異なる検査方法を用いる場合もある。これらの状況に適切に対応した検査技術および結果の解釈ができる能力を身につける。授業では、意識レベルの検査、知覚検査、筋トーン検査、反射検査、脳神経検査、協調性検査、片麻痺運動機能検査、姿勢反射・バランス検査、高次脳機能検査などについて、疾患特性を踏まえたオリエンテーション、検査方法を実践する。	共同

授 業 科 目 の 概 要					
(医療健康学部理学療法学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門教育分野	専門科目 理学療法治療学	理学療法評価学	臨床運動分析学演習	理学療法士は、動作の専門家であり、運動を分析し解釈するための知識・技能の修得が必要である。本演習では、「運動学」や「運動学実習」で修得してきた知識をもとに、立ち上がり、歩行等の基本動作を力学的に理解し説明できるようになることを目指す。また、理学療法の対象疾患において特徴的な姿勢や動作の診かたについても学び、肉眼的に動作分析できるようになることを目指す。	
		ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法	性差医療の視点から健康問題を捉え、その症状や生活の質の改善につながる理学療法を提供するニーズが近年高まっている。本講義では、女性および男性それぞれのライフステージにおいて起こる様々な生理学的変化や心理社会的影響、特有の身体的変化を理解し、心身の健康状態を維持・増進するための理学療法の理論と実際を学ぶ。本講義の学修目標は、ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法領域の動向について理解し、説明できることとする。授業では、産前産後の問題や失禁の治療と予防、骨盤底筋障害の予防と管理、スポーツを実施する女性に対するマネジメントなどを取り扱う。		
		運動器理学療法学 I	運動器は身体を支え全身の運動を司る重要な組織であり、理学療法のための介入対象となる。本講義では、運動器疾患に対する理学療法の総論や各組織の治癒過程、各疾患の病態を学び、それらに基づいた系統的な理学療法評価とその統合と解釈、さらには治療計画立案のプロセスについて理解を深める。授業では、変形性関節症や骨折、脱臼、靭帯損傷、関節リウマチとその近縁疾患、スポーツ外傷・障害、脊椎疾患、腰痛症、肩関節周囲炎、腱板損傷、頸椎症、胸郭出口症候群、頸肩腕症候群、その他の骨関節疾患などを取り扱う。		
		運動器理学療法学実習 I	運動器は身体を支え全身の運動を司る重要な組織であり、理学療法のための介入対象となる。本実習では、「運動器理学療法学 I」で学んだ基礎理論を踏まえて、運動器障害に対する系統的な理学療法評価とその統合と解釈、さらには治療計画立案の進め方を実践する。授業では、変形性関節症や骨折、脱臼、靭帯損傷、関節リウマチとその近縁疾患、スポーツ外傷・障害、脊椎疾患、腰痛症、肩関節周囲炎、腱板損傷、頸椎症、胸郭出口症候群、頸肩腕症候群、その他の骨関節疾患などに対する理学療法を取り扱う。	共同	
		運動器理学療法学 II	運動器は身体を支え全身の運動を司る重要な組織であり、理学療法のための介入対象となる。本講義では、運動器疾患に対する系統的な理学療法治療の理論を学修する。また、各疾患の病態から考えられる、理学療法を進めるうえでのリスク管理についても理解を深める。授業では、変形性関節症や骨折、脱臼、靭帯損傷、関節リウマチとその近縁疾患、スポーツ外傷・障害、脊椎疾患、腰痛症、肩関節周囲炎、腱板損傷、頸椎症、胸郭出口症候群、頸肩腕症候群、その他の骨関節疾患などに対する理学療法を取り扱う。		

授 業 科 目 の 概 要			
(医療健康学部理学療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育分野 専門科目 理学療法治療学	運動器理学療法実習Ⅱ	運動器は身体を支え全身の運動を司る重要な組織であり、理学療法の主な介入対象となる。本実習では、「運動器理学療法Ⅱ」で学んだ基礎理論を踏まえて、運動器疾患に対する系統的な理学療法治療を実践し、技術を修得する。また、評価に基づいた治療プログラム立案の考え方も学修する。授業では、変形性関節症や骨折、脱臼、靭帯損傷、関節リウマチとその近縁疾患、スポーツ外傷・障害、脊椎疾患、腰痛症、肩関節周囲炎、腱板損傷、頸椎症、胸郭出口症候群、頸肩腕症候群、その他の骨関節疾患などに対する理学療法を取り扱う。	共同
	運動療法学	理学療法の主要な治療技術である運動療法について、対象となる病態の理解を深め、運動メカニズム、運動学習、運動連鎖などの主要な理論的枠組みを学修する。同時に、基本的運動療法（関節可動域運動、筋力増強運動、持久力増強運動等）に関する概念、適応と禁忌、具体的方法について理解する。	
	運動療法学実習	「運動療法学」の知識をもとに、理学療法の対象となる疾患・障害に対しての運動療法の理論と技術について理解し、実施できることを目標とする。本授業では、関節可動域制限や筋力低下、筋緊張異常、持久力低下、感覚異常、姿勢異常（臥位、座位、立位）、運動能力低下・動作能力低下、バランス・平衡機能低下に対する運動療法の実施方法を学ぶ。また、起居移動動作能力低下、セルフケア能力低下に対する生活指導の実施方法を学ぶ。担当教員はこれまでの実務経験と研究を統合した講義を行う。	共同
	義肢装具学	理学療法の基本的な治療としての装具療法が、適切に実施できるように、まず、義肢と装具の種類とその使用目的を理解する。対象者に直接装着し使用するために必要な適合とその確認方法や調整方法について学ぶ。切断のリハビリテーションとして、切断の原因、手術後の理学療法介入内容を学ぶ。特に、切断の評価を適切に行い、義肢（義手と義足）の選定を行えるようになる。また、最新の義肢のバイオメカニクスの基礎知識を学ぶ。障害に応じた補装具や義肢の適応を考え、生活動作や移動、姿勢保持等（ポジショニング・シーティング）に適用できるように、基礎的な知識を養う。	
	義肢装具学演習	理学療法士として必要な義肢装具学に関する技術を修得する。装具については、特に下肢装具の適合判定に必要なアライメント修正や、静的・動的適合を行うための調整技術を学ぶ。一方で、義肢については、義肢を構成する部品とその役割を理解した上で、理学療法の評価、義肢の選択と適合、義肢を使った立位、歩行練習に関する基本的な技術を学ぶ。加えて、切断者の日常生活を支援する環境整備と支援方法を学ぶ。	共同
	クリニカル・リーズニング総論	根拠に基づく理学療法（EBPT）を実践するための基礎として、検査・測定に基づく対象者の評価から問題点（推論含む）を提起し、その問題点を解決するための目標設定や治療計画の立案などの基本的なプロセスについて、最新の知見を取り入れながら学ぶ。また、対象者を生活者としての視点でも捉え個人的因子や背景因子なども加味した理学療法のプロセスについても学ぶ。これら多角的な検討を行う上で、関連した論文や理学療法ガイドラインなども参考にする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(医療健康学部理学療法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 分野	専門 科目	理学 療法 治療 学	<p>これまで学んだ専門知識を応用し、評価内容や治療経過などの情報が与えられた各疾患のモデル症例（ヘルスケア・シナリオ）に対する理学療法の方策を導くためチューターである教員のもとでグループワーク（Problem based learning ; PBL）を行う。具体的にはこのモデル症例の情報、検査所見、画像などから、必要な評価項目、理学療法を行う上でのリスクや配慮、問題提起の視点や理学療法の課題とその方法を検討する。臨床実習で学んだ理学療法に関連した知識と応用力を、この演習でより深める。</p>
			<p>全ての人々がスポーツを通じて豊かな生活を過ごすというスポーツ基本法の理念に基づいて、障がい者や障がい児のスポーツ活動の重要性を理解する。さらに、子どもから高齢者、様々な障がい者が共にスポーツを楽しむアダプテッド・スポーツの意義と具体的な取り組みを理解する。従来のリハビリテーションの延長にあるスポーツだけでなく、スポーツによる健康増進や身体を動かす充実感、ゲームに取り組む意欲を高める集中力など、障がい者スポーツやアダプテッド・スポーツの意義を理解する。障がい者スポーツの基礎的な知識として、障がいに対する配慮や留意点、運動種目を学ぶ。障がい者スポーツ活動を支援するために場面設定や用具、介助等のサポート、また実施場面の環境整備の重要性を理解する。また、全国障がい者スポーツ大会やパラリンピックの正式種目の概要を理解し、公平に競うための障がい区分やルールを理解し、運営の重要性を学ぶ。</p>
			<p>小児理学療法の対象は、出生時や成長期の初期に障害を引き起こすことが予想される児である。主な疾患である脳性麻痺、二分脊椎や運動発達遅滞、染色体異常(ダウン症候群など)の病態と成長・発達に及ぼす影響を学ぶ。また、周産期の低出生体重児や未熟児等のハイリスク児への早期介入を学修する。主な疾患で生じる障害像は多様で、加齢による病態の変化も大きい。この特性を理解し、適切な理学療法が実施できるよう検査所見や診断法や理学療法評価と理学療法実施の基礎知識を養う。理学療法評価では運動機能と共に摂食・嚥下の障害に対する評価も学ぶ。また、医療場面だけでなく、家族や学校など生活場面に応じた支援を他の専門職と協調して行うことを理解する。さらに学校教育での理学療法士の役割を学修する。</p>
			<p>ギラン・バレー症候群や重症筋無力症など神経・筋疾患を有した患者に対しては、理学療法による適切な介入を行うことによって、その後の疾病に起因する機能障害の進行を抑え、日常生活機能を維持させることができる。このため、これらの疾患に関する専門的知識と理学療法の修得が必要である。本講義では、神経・筋疾患を扱う。本講義の学修目標は、これらの疾患に関する理解と理学療法評価およびその治療的技法について理解できるようになることである。特にこれらの疾患のケアはチーム医療の視点が重要になるため、包括的な患者のケアの方法について学べるよう授業を展開する。</p>

授 業 科 目 の 概 要					
(医療健康学部理学療法学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門教育分野	専門科目	理学療法治療学	スポーツトレーニング特論	競技力向上を目指すスポーツ選手だけでなく、子どもから高齢者まで一般人の健康・体力づくりを目的として筋力トレーニングに対するニーズが高まり、トレーニングを総合的にコーディネートし指導する専門家が求められる。そこで要求されることは、運動療法の理論などについて科学的根拠に基づいた指導をしていくことである。本講義では、障害予防、健康増進、競技力向上のために筋力トレーニングを基盤として、筋力、パワー、スピード、柔軟性、全身持久力も含めた体力諸要素を総合的に向上させる知識・技術を理解する。科学的知識を活用し目的に応じたストレンクス&コンディショニングプログラムを立案するための方法を学ぶ。担当教員はこれまでの実務経験と研究を統合した講義を行う。	
			スポーツ理学療法学	スポーツ理学療法の概要と考え方、スポーツ活動支援における理学療法士の役割と理学療法、障がい者スポーツ支援の概要と考え方と理学療法士の役割について学修する。競技スポーツから健康維持を含めた生涯スポーツ場面で生じやすいスポーツ外傷・障害に対して理学療法士として適切に対応するための知識・技術について学修する。スポーツ外傷・障害の病態と発生機序を理解し、スポーツ選手やスポーツ愛好家の体調を管理し、外傷・障害を予防するための理学療法について理解する。競技復帰する過程のアスレチックリハビリテーションを実践するために必要な知識と簡単な技術を修得する。詳細な技術に関しては、「スポーツ理学療法学演習」で修得する。また、障がい者スポーツへの関わり方についても学修する。	
			スポーツ理学療法学演習	スポーツに取り組む者が効率よく安全に競技活動を実践するうえで、理学療法が貢献できる部分は非常に大きい。本講義では、「スポーツ理学療法学」で学んだ基礎理論を踏まえて、実際の臨床場面での原因考察能力を養う。授業では、上下肢・体幹・頭頸部の主要なスポーツ外傷・障害に対する理学療法を取り扱う。また、損傷組織の治癒過程と競技特性を考慮した系統的な理学療法も学ぶ。さらに、スポーツ外傷・障害の発生メカニズムを考察し、それに基づいた理学療法を立案・実践することも行う。	
			神経理学療法学Ⅰ	中枢神経疾患は日常生活活動を低下させる危険性が高く、理学療法の対象となることが多い疾患である。一度低下した日常生活機能を改善させるためには、各患者に応じた効果的な理学療法を提供することが重要であり、この疾患の病態や理学療法の考え方を学ぶことは、理学療法士を目指す者として必須事項であるといえる。授業では、中枢神経疾患のうち脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍の病態・心身機能の特徴を理解した上で、理学療法に必要な評価、治療の概要について学ぶ。	
			神経理学療法学実習Ⅰ	「神経理学療法学Ⅰ」で学修した脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍についての知識を基に、疾患に対する基本的な理学療法の評価技術と治療技術を実践する。疾患特有の検査時の反応、起居移動動作の特徴などを踏まえた上で、どのように検査を進め、結果を解釈し、治療プログラムを実施するのかを考え、実践する。具体的には、各種検査時のオリエンテーション、反応を引き出すための工夫、動作時の介助方法や治療方法のポイントを学ぶ。	共同

授 業 科 目 の 概 要					
(医療健康学部理学療法学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門教育分野	専門科目	理学療法治療学	神経理学療法学Ⅱ	理学療法の臨床では、パーキンソン病や脊髄小脳変性症、多発性硬化症、アルツハイマー型認知症、脊髄損傷など、「神経理学療法学Ⅰ」では扱わない中枢神経系に障害を有した対象者にも理学療法が重要になるケースが多い。このため、幅広い中枢神経障害の理学療法知識が必要となる。本講義では、神経理学療法領域の内、脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍以外の中枢神経に病態の本態を持つ疾患を扱う。本講義の学修目標は、疾病について学んだ上で、理学療法に必要な評価内容ならびに治療概念を理解することとする。そのために、「機能・能力評価学Ⅰ・Ⅱ」、「運動療法学」および「日常生活活動理学療法学」などで学んだ知識が生かされるように授業を構成する。以上の理解によって、「神経理学療法学実習Ⅱ」の円滑な実技学修につなげていく。	
			神経理学療法学実習Ⅱ	理学療法の臨床では、パーキンソン病や脊髄小脳変性症、多発性硬化症、アルツハイマー型認知症、脊髄損傷など、「神経理学療法学Ⅰ」では扱わない中枢神経系に障害を有した対象者にも理学療法が重要になるケースが多い。このため、幅広い中枢神経障害を来たす評価技術と治療技術の修得が必要となる。本講義の学修目標は、「神経理学療法学Ⅱ」で学んだ知識をベースとして、実際の理学療法評価と治療技術を修得することとする。理学療法評価学や運動学関連の授業や「チーム医療論」ともつながりを持たせることで、当該授業の理解を深められるよう授業を展開する。	共同
			疼痛理学療法学	疼痛は、非常に多くの疾患で起こりうる症状であり、特に慢性疼痛は、経済的損失をもたらす社会的問題となっている。理学療法士はこの疼痛緩和の一翼を担うため、疼痛全般の知識、評価ならびに治療技術の理解が必要となる。本講義の学修目標は、疼痛と関連疾患、それらに対する評価ならびに治療の概念を理解することとする。特に、各疾患（例えば、慢性疼痛、複合性局所疼痛症候群、線維筋痛症）に特有の疼痛に対する評価と治療の概念を学ぶことで、幅広い疼痛患者に対応できることを目的とした授業を展開する。	
			内部機能理学療法学Ⅰ	理学療法の対象の内部障害系疾患は、理学療法の介入指導により生活再建や社会復帰が期待される。「内部機能理学療法学Ⅰ」では、循環器・呼吸器系障害を引き起こす疾患の病因、病態生理や診断、治療について基礎的知識を理解し、それに関連する理学療法の基礎的技術を学ぶ。呼吸循環系の解剖生理学、慢性閉塞性閉塞性肺疾患（COPD）やその他の呼吸器疾患の病態・症状・検査所見・診断法、虚血性心疾患や心不全などの心疾患の病態・症状・検査所見・診断法、内部障害に対する評価と介入方法について学ぶ。	
			内部機能理学療法学Ⅱ	「内部機能理学療法学Ⅱ」では、腎臓疾患とがんの理学療法に関してその疾患の病因、病態生理と診断についての基礎知識をもとに、理学療法の実施に関する基礎的な知識を学ぶ。特にこれらの疾患は、治療を継続しながら社会生活を送ることが多く、理学療法士が生活再建や仕事の継続に適切な指導を行う事が期待されている。腎臓疾患の症状と病態像、様々な治療方法やその経過を知り、理学療法評価と介入方法を学ぶ。がんのリハビリテーションでは、がんによる様々な不随症状である易疲労性、浮腫、疼痛、また、治療による体重減少や免疫力低下に配慮した理学療法の実施を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要					
(医療健康学部理学療法学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門教育分野	専門科目	理学療法治療学	内部機能理学療法実習	内部障害系疾患に対する理学療法を実施するために、基本的な技術と評価や計測と治療原則を学ぶ、特に実習では、①呼吸器系理学療法に必要な視診・聴診・打診などの各種評価法や各種換気機能の計測を実施し、学ぶ。②ストレッチや呼吸法、および体位排痰法や吸引などの手技をモデルを使用して実施し学ぶ。③循環器系理学療法に必要なバイタルサインや心電図や運動負荷試験等の各種方法を実習を通して学ぶ。④代謝系疾患や腎疾患により生じる運動障害や知覚障害、身体機能低下の評価方法を学ぶ。	
			日常生活活動理学療法学	理学療法の主要なゴールの一つは日常生活能力の向上である。このため、日常生活活動を学ぶことは、理学療法を遂行する上で不可欠である。本講義の学修目標は、理学療法における日常生活の位置づけ、各種日常生活動作の能力評価、運動学的評価、障害分類とその治療について理解し、説明できるようになることである。本講義は同実習で行う日常生活活動評価技術ならびに治療的介入技術の修得のなかでつながりを持たせる。	
			日常生活活動理学療法実習	本授業は「日常生活活動理学療法学」の発展系として位置付ける。日常生活活動能力を実際に評価し、疾患とその病態に応じた動作の指導や治療的介入が行えることは、理学療法士にとって重要なスキルである。本授業の学修目標は、各種の疾患を患った対象者の日常生活活動能力を適切に評価できること、ならびに基本動作についての適切な指導と治療的介入ができることである。具体的な授業内容は杖、車いす、自助具など様々な生活支援機器を用いて実技形式の授業を展開し、理解と技術の促進を図る。	共同
			物理療法学	対象者に対して安全かつ効果的な理学療法を提供できるように、基本的な技術のひとつである物理療法学に関する知識について講義する。本講義の学修目標は、各種物理療法（温熱療法・寒冷療法・光線療法・超音波療法・多連発骨格筋磁気刺激装置・電気刺激療法・牽引療法等）の適用と禁忌、それらの実施方法について理解し、説明できるようになることとする。また、各種物理療法に関する科学的知見についても、学術論文やガイドラインを提示しながら説明し、エビデンスに基づく物理療法を実施するために必要な知識の修得を目指す。	
			物理療法実習	対象者に対して安全かつ効果的な理学療法を提供できるように、基本的な技術のひとつである物理療法学に関する知識・技能について実習を通じて修得する。本実習では、「物理療法学」の講義で学修した内容を踏まえて、実際に治療機材を使用しながら、各種物理療法（温熱療法、寒冷療法、光線療法、超音波療法、電気刺激療法、牽引療法、多連発骨格筋磁気刺激装置等）の適用と禁忌、それらの実施方法について理解し説明でき、さらに実際に各種物理療法を使用できるようになることを目標とする。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(医療健康学部理学療法学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育分野	専門科目 理学療法治療学	理学療法リスクマネジメント演習	医療機関において患者および医療従事者の安全を確保することは、質の良い医療サービスを提供する上での基本である。本講義では、主に理学療法の現場で発生する事故や病気およびその管理問題について、基礎知識と考え方、最新動向、先進国のリスクマネジメントの捉え方、組織の内部統制との関連等を具体的な事例をもとに学修する。本講義の学修目標は、医療現場で発生する事故や病気の背景や原因を理解し、事故発生予防策および発生時の処置を実践できることとする。授業では、3大疾患を中心とした重度の循環不全や呼吸不全、熱傷、熱中症、固定法と止血法、災害医療、災害予防などを取り扱う。	
		理学療法学演習Ⅰ	理学療法関連雑誌における日本語の症例報告を読みその内容を理解する。理学療法を行う上で不可欠な問題解決能力を養うために架空の重複障害を持たない基本的に運動器障害を持つ理学療法対象患者の情報（ヘルスケアシナリオ）を基にチューターのもと、少人数グループでディスカッションし、身体的・心理的・社会的な問題点を抽出しそれらの問題点の原因分析と改善の可否についても検討した上で妥当性のある解決策についてグループワークを通じて検討し意見として導き出す問題解決型学習（Problem based learning; PBL）を行う。	
		理学療法学演習Ⅱ	中枢神経疾患患者のシナリオを元にした問題解決型学習（Problem based learning; PBL）を通してグループワークを行い、その問題点について国際生活機能分類（ICF）に準じて明確にしていく。また、それらの問題点の原因分析を行い改善の可否判断を行った後、具体的な解決法や代償法について検討する。さらに、心身機能・能力の障害に関してはそれらの原因について考察し、推論を確認するためのスクリーニング方法について検討する。また、予後予測を行った上で理学療法のプログラムや代償法を立案する。中盤は臨床能力を養うための模擬患者（Simulated patient）演習を行う。患者情報は各班のチューターである担当教員が用意し、学生は2人一組となって患者役と理学療法士役を行い理学療法に必要と思われる評価（検査・測定）を行う。それに続いては、患者情報の内容を混ぜ、客観的臨床能力試験（Objective structured clinical examination; OSCE）を行う。必要に応じて実際の理学療法場面についての動画を参照させる。	
		理学療法学演習Ⅲ	架空の、重複障害等複雑な背景を持つ患者情報や、実際の患者の動画やCT、MRI、X線画像、心電図、臨床検査データ等を元に少人数でのグループディスカッションを行い、理学療法を行う上での問題点の原因分析を行い改善の可否判断を行った後、理学療法としての具体的な解決法や代償法について検討する。また、予後予測を行った上で理学療法のプログラムや代償法を立案する。理学療法診療ガイドライン（2020年度版）を参考に、各疾患や障害に対する理学療法のエビデンスについてグループ学習を通して検討する。	

授 業 科 目 の 概 要					
(医療健康学部理学療法学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門 教育分野	専門 科目	理学療法治療学	臨床理学療法論	一般臨床現場における理学療法では、単一疾患だけでなく、二次的障害、重複障害や難病などを有する対象者へのリハビリテーション介入を行うことが多い。このような対象者では心身機能の特徴の個性が大きく、より臨床的な様々な観点から捉え、個々の対象に応じた理学療法を考慮する必要がある。本授業では、匿名化された実際の臨床データを基に、患者の全体像を捉え、目標、問題点、治療プログラム立案を行う。更には今後求められる先端理学療法や最新のニューロリハビリテーション医療・運動療法・遺伝子治療や再生医療のリハビリテーションについても講義する。	
		地域理学療法学	介護予防評価演習	(概要) 少子高齢化に伴い、介護予防への社会的関心の高まりは明らかであり、理学療法士が介護予防分野に関わる機会は年々増加している。このような背景を考えると、理学療法士になるに当たり、介護予防に関する評価スキルの向上は必要不可欠であると考えられる。本講義の学修目標は、高齢者の介護予防に関連する評価に特化した評価技術が実施できるようになることとする。「機能・能力評価学Ⅰ」、「機能・能力評価学実習Ⅰ」、「機能・能力評価学Ⅱ」、「機能・能力評価学実習Ⅱ」では修得が不十分な転倒リスク、身体活動量、歩行能力など、介護分野に関わる評価方法、評価の基準値の理解とその結果の解釈が学べるよう講義を展開する。 (オムニバス方式/全15回) (⑫ 川崎 翼/6回) 介護予防領域における評価の重要性、チェックリスト、健康診断結果の解釈、筋力評価、柔軟性評価、身体活動レベル評価、運動習慣、栄養状態、嚥下機能評価について講義する。 (⑬ 米澤 美園/6回) 歩行能力評価、運動耐容能評価、姿勢アライメント評価、静的・動的立位バランス評価、包括的立位バランス評価、転倒危険性評価、認知機能評価、うつ・不安評価、自己効力感評価、生活機能評価、生活の質(QOL)の評価、健康観の評価等について講義する。 (⑫ 川崎 翼・⑬ 米澤 美園/3回)(共同) 各学生が介護予防評価を体験できるように演習形式の授業を実施する。	オムニバス方式・共同(一部)
		生活環境支援理学療法学	生活環境支援理学療法学	本講義では、障害を有しても、快適で自立した生活を営むことができる生活環境の構築を行うための支援法について理解を深める。具体的には、福祉用具や住宅改修の基礎、福祉用具の体験学習、症例の生活像に応じた生活環境支援計画の立案方法について学ぶ。在宅生活を維持するために、継続的に支援することを理解する。また、近年、人間工学や環境学等隣接領域で開発された技術を知る。	

授 業 科 目 の 概 要				
(医療健康学部理学療法学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育分野	専門科目 地域理学療法学	地域理学療法学	理学療法士として、対象者の生活支援を行うための基本的な知識を修得する。地域社会の生活場面で、健康増進や介護予防、時には災害時の支援など、身近な地域の中で生活を継続するための支援を理解し、取り組むための基礎知識を学ぶ。福祉施設やサービスを理解し、専門職種としての役割を理解する。また、生活評価の方法や指導などを、地域で活動している他の職種と連携し協働する重要性を学ぶ。対象は、乳幼児とその家族、障害児・者、高齢者など社会的弱者とともに、働く世代や介護を担う人材など幅広い。	
		予防理学療法学 総論	近年、高齢者の疾病を未然に防ぐことや、それによる医療費抑制という観点から予防医学が重要となっている。理学療法士も各種の予防事業などに関わる機会が増えていることから、予防理学療法に関する知識の修得が必要となる。本講義の学修目標は、理学療法の専門的立場から予防的介入を理解することである。具体的には、運動療法、動作指導、セルフマネジメント指導を中心とした介入によって、壮年期から老年期に起こりやすいイベントや疾病（例えば転倒、誤嚥、運動器不安定症、認知症、生活習慣病）の予防方法を理解することである。また、本講義では予防理学療法展開のための基礎となることとなる、コミュニティプロモーションやヘルスコミュニケーションについても扱うこととする。	
		予防理学療法学 各論	医療費抑制や健康寿命の延伸を目的とした各種施策と共に予防の重要性は高まっている。これに伴い理学療法士は、必然的に広く深い予防に関する専門的知識が求められているといえる。本講義の学修目標は、各種疾病（例えば腰痛、脳血管障害、骨折）の予防に主眼を置き、理学療法士の立場からの専門的介入を理解することとする。具体的内容は、各専門科目における理学療法手法の発展形として、基本的な予防に向けたリハビリテーションのみならず、レクリエーションや作業を通じた介入方法など関連職種における治療法を参考にしながら、多角的な理学療法が実施できるよう、講義を行うこととする。	

授 業 科 目 の 概 要					
(医療健康学部理学療法学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専 門 教 育 分 野	専 門 科 目	臨 床 実 習	機能・能力評価学 臨床実習	対象者の情報収集能力ならびに検査・測定技術の向上を図ることを目的とする。そのために、学内で学んだ理学療法に関する基礎知識ならびに検査・測定技術を基にし、症例の各種の情報収集ならびに理学療法に関連する各種の検査・測定を繰り返し行う。その際、各種リスクを配慮した上で、臨床実習指導者の見学、模倣の後に実施という段階的手続きを踏む。学生の到達度に応じて、可能であれば収集した情報と各種の検査・測定結果から、対象者の状態について心理、社会、精神、身体機能など多面的に評価を行うことが望ましい。	
			総合臨床実習Ⅰ	症例に対する各種の情報収集ならびに、理学療法評価に基づいた統合と解釈の実践を経験することを目的とする。そのために、これまでの学内・学外での学修を通じて得た知識・技術に基づき、各種リスクを配慮した上で、臨床実習指導者の見学、模倣の後に実施という段階的手続きを踏む。対象者の状態が適切に把握できたならば、指導者の指導の下で治療の立案ならびにリスクが少ない対象者への治療に限り、その一部を実施する。また、実習を通じて、他職種との連携ならびにチーム・アプローチについても学ぶ。「総合臨床実習Ⅰ」または「総合臨床実習Ⅱ」の中での地域理学療法に関する実地体験を通じて、地域理学療法の意義と地域における理学療法士の役割ならびに他職種との連携について理解する。そのために、ケアプランの立案過程を見学し、通所リハビリテーションあるいは訪問リハビリテーションの対象者に対する理学療法の見学とその一部を体験する。注) 地域理学療法に関する実地体験は、「総合臨床実習Ⅰ」もしくは「総合臨床実習Ⅱ」の中で実施する。学生によって実施する科目及び実施時期が異なるが、その実地体験の内容は同一のものである。	
			総合臨床実習Ⅱ	多職種連携ならびにチーム・アプローチの観点を十分に取り入れ、症例に対する包括的な情報収集ならびに理学療法評価から治療実践、さらにその後の再評価までの理学療法プロセスを体験することを目的とする。そのために、各種リスクを配慮した上で、臨床実習指導者の見学、模倣の後に実施という段階的手続きを踏む。「総合臨床実習Ⅰ」または「総合臨床実習Ⅱ」の中での地域理学療法に関する実地体験を通じて、地域理学療法の意義と地域における理学療法士の役割ならびに他職種との連携について理解する。そのために、ケアプランの立案過程を見学し、通所リハビリテーションあるいは訪問リハビリテーションの対象者に対する理学療法の見学とその一部を体験する。注) 地域理学療法に関する実地体験は、「総合臨床実習Ⅰ」もしくは「総合臨床実習Ⅱ」の中で実施する。学生によって実施する科目及び実施時期が異なるが、その実地体験の内容は同一のものである。	

授 業 科 目 の 概 要			
(医療健康学部理学療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育分野	専門科目	総合分野	総合理学療法学
		<p>(概要) 基礎分野では解剖・生理学として学んだ科目を、身体の機能と構造という観点から理学療法対象者を例に統合的に理解させ、専門分野では対象者（疾患）の例をいくつか挙げ、それらの問題点を明確にし、治療方法を立案するために臨床医学的な知識と理学療法に関する総合的な知識を改めて復習し理解を深めるために各分野について統合的に講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(5 小川 哲郎/5回)</p> <p>基礎医学系の統合的解釈に関する講義を担当する。</p> <p>(7 岩瀬 利郎/4回)</p> <p>医学一般及び精神医学の統合的解釈に関する講義を担当する。</p> <p>(11 戸島 美智生/1回)</p> <p>理学療法実施と運動学・運動療法に関する講義を担当する。</p> <p>(17 一寸木 洋平/1回)</p> <p>理学療法とエビデンス・統計学に関する講義を担当する。</p> <p>(14 猪股 高志/1回)</p> <p>理学療法の関連法規に関する講義を担当する。</p> <p>(1 杉本 諭/2回)</p> <p>理学的検査・神経系検査・感覚検査、脳血管障害に対する理学療法に関する講義を担当する。</p> <p>(2 武田 要/1回)</p> <p>徒手筋力検査、関節可動域検査、疼痛評価に関する講義を担当する。</p> <p>(18 窪田 智史/2回)</p> <p>整形外科的検査、骨・靭帯損傷・変性疾患に関する講義を担当する。</p> <p>(19 米澤 美園/2回)</p> <p>介護予防関連検査、ADL改善のための理学療法に関する講義を担当する。</p> <p>(9 諸角 一記/1回)</p> <p>物理療法の適用に関する講義を担当する。</p> <p>(15 芝原 美由紀/2回)</p> <p>義肢・装具・自助具の適用、小児理学療法学に関する講義を担当する。</p> <p>(16 志村 圭太/2回)</p> <p>ミオパチー等に対する理学療法、脊髄損傷・末梢神経損傷に対する理学療法に関する講義を担当する。</p> <p>(13 金崎 雅史/2回)</p> <p>呼吸・代謝疾患、循環器疾患に対する理学療法に関する講義を担当する。</p> <p>(8 池田 誠/1回)</p> <p>ニューロパチーに対する理学療法に関する講義を担当する。</p> <p>(12 川崎 翼/2回)</p> <p>パーキンソン病・多系統萎縮症等に対する理学療法に関する講義を担当する。</p> <p>(10 二宮 省悟/1回)</p> <p>遺伝性疾患に対する理学療法に関する講義を担当する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(医療健康学部理学療法学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育分野	専門科目 総合分野	理学療法学研究法	<p>(概要)臨床現場での実践とともに「研究」に取り組む事は、エビデンスに基づく理学療法実践の展開力を身につけ、理学療法という専門領域を確立・発展させるためにも重要である。本講義では理学療法における研究の現状を概観するとともに、「理学療法学研究実践法」を見据えて、研究計画の立案および研究を進める上で必要となる基礎的知識、医療統計、エビデンス（根拠）に基づく理学療法、研究倫理、研究方法について学ぶ。また、関連領域の研究論文を精読することを通して、科学的な態度を身につけることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (⑰ 一寸木 洋平/10回) 理学療法と研究、研究デザイン、文献収集・読解、研究の進め方、統計手法、発表の方法、研究計画の作成について講義する。 (⑪ 戸島 美智生・⑱ 窪田 智史・⑩ 志村 圭太/1回)(共同) 研究会の形式で、各教員が20分程度の研究のプレゼンテーションを行う。 (② 武田 要・⑭ 猪股 高志・⑫ 川崎 翼・③ 麓 正樹/1回)(共同) 研究会の形式で、各教員が20分程度の研究のプレゼンテーションを行う。 (⑨ 諸角 一記・⑤ 小川 哲郎・⑮ 芝原 美由紀・⑤ /1回)(共同) 研究会の形式で、各教員が20分程度の研究のプレゼンテーションを行う。 (⑩ 二宮 省悟・① 杉本 諭・⑥ 山本 大誠・④ 生田 太/1回)(共同) 研究会の形式で、各教員が20分程度の研究のプレゼンテーションを行う。 (⑬ 金崎 雅史・⑦ 岩瀬 利郎・⑲ 米澤 美園・⑰ 一寸木 洋平/1回)(共同) 研究会の形式で、各教員が20分程度の研究のプレゼンテーションを行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
		理学療法学研究実践法	<p>臨床現場や教育・研究機関において、理学療法士はエビデンスに基づく理学療法実践の展開力を身につけておく必要がある。「理学療法学研究実践法」で学修したことをもとに、具体的なテーマを持って専門分野に精通する教員の指導に従って研究を実施する。研究目的とその対象に応じて仮説を立て、種々の調査・測定や実験を行い、その結果を整理して得た検証の成果を考察する。研究成果を口頭で発表し、論文・レポートにまとめることで、発表技術と科学的論文の作成方法を修得する。このプロセスを通じて、医療従事者としての広い視野を養い、様々な疑問や問題に対する問題解決能力を身につけ、科学的・論理的な思考過程を修得する。</p>	

学校法人東京国際大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度(2020年度) 入学定員 編入学定員 収容定員

令和3年度(2021年度) 入学定員 編入学定員 収容定員 変更の事由

東京国際大学			
商学部			
商学科	100	—	400
経営学科	80	—	320
経済学部			
経済学科	435	—	1,740
国際関係学部			
国際関係学科	245	—	980
国際メディア学科	60	—	240
人間社会学部			
福祉心理学科	25	—	100
人間スポーツ学科	230	—	920
スポーツ科学科	200	—	800
言語コミュニケーション学部			
英語コミュニケーション学科	230	—	920
中国言語文化学科	0	—	0
計	1,605	—	6,420
東京国際大学大学院			
商学研究科			
商学専攻(M)	30	—	60
商学専攻(D)	3	—	9
経済学研究科			
経済学専攻(M)	20	—	40
経済学専攻(D)	3	—	9
国際関係学研究科			
国際関係学専攻(M)	20	—	40
臨床心理学研究科			
臨床心理学専攻(M)	25	—	50
臨床心理学専攻(D)	2	—	6
計	103	—	214

東京国際大学			
商学部			
商学科	100	—	400
経営学科	80	—	320
経済学部			
経済学科	<u>475</u>	—	<u>1,900</u> 定員変更(40)
国際関係学部			
国際関係学科	<u>310</u>	—	<u>1,240</u> 定員変更(65)
国際メディア学科	60	—	240
人間社会学部			
福祉心理学科	25	—	100
人間スポーツ学科	230	—	920
スポーツ科学科	200	—	800
言語コミュニケーション学部			
英語コミュニケーション学科	<u>250</u>	—	<u>1,000</u> 定員変更(20)
中国言語文化学科	0	—	0
医療健康学部			
			学部の設置 (認可申請)
理学療法学科	<u>80</u>	—	<u>320</u>
計	<u>1,810</u>	—	<u>7,240</u>
東京国際大学大学院			
商学研究科			
商学専攻(M)	30	—	60
商学専攻(D)	3	—	9
経済学研究科			
経済学専攻(M)	20	—	40
経済学専攻(D)	3	—	9
国際関係学研究科			
国際関係学専攻(M)	20	—	40
臨床心理学研究科			
臨床心理学専攻(M)	25	—	50
臨床心理学専攻(D)	2	—	6
計	103	—	214